

第 21 回 全国高等専門学校デザインコンペティション 2024 in 阿南 「繫」

空間デザイン部門 募集要項 【テーマ：タテ×ヨコ】

【課題概要】

私たちの社会は何度となく災害に襲われ、避難し、時には被災し、支えあい、街や制度を直し、やがてくる次の災害に備え、命を受け継いできました。みなさんが生まれてからの約 20 年間にも、日本では大きな地震や津波、原発事故、火山噴火、毎年の豪雨や洪水が起こり、世界に目を向ければ自然災害だけでなく各地で紛争も続いています。今後、みなさんの生きていく社会で何が起こるのか、そのすべてを想像することは困難ですが、それでもみなさんは「災間」を生き抜き、あなたの生き方が友人、家族、地域を変えていきます。

災害後に噴出する様々な課題は災害前からすでにあった課題がさらに加速して現れてきたものです。例えば災害後には人口減少や地域産業の衰退が進み、災害前の水準に戻るには多くの時間と投資が必要になります。また、平時でも復興事業を進める際にも縦割りの弊害や横つなぎの重要性などはよく指摘されることです。

さあ、まずは、あなたの暮らす地域の課題や予想される災害について知り、あなた自身が災害に対してどのように生きるのかを考えてみてください。そのためには何が必要で、どのような可能性に満ちているでしょうか。建築学、土木工学、都市計画学、農村計画学などの既存の空間デザイン手法にとらわれず、他の工学、芸術、文学、教育、文化財、医療、商業などの地域資源と「繫」りながら、あなたの生き方を支える新しい空間デザインの可能性を提案してください。

1. 設計条件

- ・用途、規模、敷地は自由とする。
- ・デザインの対象は建築物、土木構築物、都市農村空間等とし、幅広い分野の知見を含むものとする
- ・あなたの生き方を支える新しい空間デザインの可能性を提案すること

2. 競技方法

(1) 重視する審査項目

- ・地域の課題を当事者としてとらえているか。
- ・提案内容は一分野の学術・技術・芸術にとどまらない総合的な知恵を有しているか。
- ・あなたの生き方を支える空間デザインの可能性を切り開くものとなっているか。

(2) 予選

- ・当該部門への応募にあたり、防災や事前復興を STEAM 教育の観点から考えるオンライン講座を用意していますので学習をした上で作品を検討するようにしてください。

<https://sites.google.com/anant-nct.ac.jp/bosai-steam/>

(2024 年 5 月 1 日 (水) 頃公開予定)

- ・提案内容をプレゼンテーションポスター(A1 サイズ(縦向きまたは横向き)1 枚以内)にまとめ、期日までにデータで所定の方法で提出する。なお、印刷物の郵送は不要とする。
- ・応募されたプレゼンテーションポスターに対して審査員が審査を行う。10 点程度を選出し、本選出場者を決定する。
- ・審査結果は 2024 年 9 月 2 日 (月) 頃にホームページに掲載するとともに、予選通過チームの代表学生と指導教員に対しては、予選通過を e-mail によって連絡する際に審査員からのコメントを伝える。コメントをもとに本選へ向けて案をブラッシュアップすること。

(3) 本選

- ・本選にて用いる作品は、プレゼンテーションポスター(A1 サイズ(縦向きまたは横向き)2 枚以内、パネル化は自由)、模型(サイズ指定なし)、スライドショーデータ(スライドサイズの指定なし)とし、表現方法として動画や AR、身体表現等を含んでもよい。
- ・会場には、1 作品ごとに幅 1800mm×奥行 1800mm の展示台 1 台(木製、台の床面は FL+200mm、天井高さは 3000mm)の空間を提供し、その空間に作品の世界観を表現すること。また、55 型モニター(脚付き)1 台、幅 1000mm×高さ 900mm のポスター掲示板 1 台、400*400*400 の台 2 つを用意しており、必要に応じてそれらを使用して作品を展示すること。なお、作品は展示した際に審査や観覧をする上で安全性を保つものでなければならない。
- ・パソコンや照明器具、電子機器等を持ち込む場合には事前に事務局に相談をすること。なお、これらは、前日もしくは当日に直接持ち込むことができるが、郵送はすることができない。また、返送も本校からは行うことができないため注意すること。
- ・印刷したプレゼンテーションポスターと模型は 2024 年 10 月 31 日(木)必着で阿南工業高等専門学校宛に郵送をすることとする。
- ・プレゼンテーションポスターのデータは PDF 形式にて、スライドショーデータは PDF 形式と PPT 形式にて 2024 年 10 月 31 日(木)必着で所定のウェブフォームよりアップをすること。これら以外のプレゼンテーションに用いるデータは当日持ち込むことができる。
- ・前日夕方、当日午前中に作品の展示を行うことができる。具体的な日時は本選出場要綱等にて公開する。
- ・本選では、次に示す 3 段階のプレゼンテーションに基づいて審査委員による評価を行う。

プレゼンテーション①：「つなぐ」ワークショップ（1日目午前）

- ・応募者は数名のインターメディアイーターと同じテーブルに着き、プレゼンテーションポスター、模型およびスライドショーデータ（動画や AR 等を用いてもよい）を用いたプレゼンテーションを行い、インターメディアイーターからの質疑に応えると共に、それを参考にして作品のブラッシュアップを行う。ワークショップの時間は120分とする。インターメディアイーターは技術者、行政関係者、市民、中学生などの多様性のあるメンバーで構成をされる。
- ・ワークショップの最後には、応募者がワークショップの成果について、審査員に向けて発表を行う。

プレゼンテーション②：「つたえる」プレゼンテーション（1日目午後）

- ・応募者は審査員に対してプレゼンテーションポスター、模型およびスライドショーデータ（動画や AR 等を用いてもよい）を用いたプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの時間は8分間とする。その後、審査員から質疑の時間を12分間設ける。
- ・「つなぐ」ワークショップの成果をプレゼンテーションに活用することが望ましい。
- ・1日目夕方に「つながる」エキスカージョン（応募者と審査員との懇親会）を設けますので、ぜひご参加下さい。なお、このイベントは自由参加であり、参加の可否により審査に影響はありません。

プレゼンテーション③：「たかめあう」クリティーク（2日目午前）

- ・応募者は3班に分かれ、1班ごとに1名の審査員が入り、「つたえる」プレゼンテーションで発表をした互いの作品についてとらえた課題や当事者性、創作した空間デザインについて20分間、批評を行いあう。批評とその応答を通じて、当事者性や自らの生き方を支える空間デザインとなっているかに自ら気づいていくことを期待しています。20分経過後、審査員は別の班に移り、再び20分間の批評を行う。これを計3回繰り返します。
- ・批評の結果を受けて、審査員は公開にて作品を審査する。審査中に応募者に対して発言を求める場合もある。審査員は最優秀賞1点、優秀賞2点、審査員特別賞2点を決定する。企業賞については、最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞を除いた作品の中から各企業が選定をする。

3. 予選応募方法

(1) 登録・応募の手続き

① 登録・応募期間：2024年7月29日（月）12:00～8月19日（月）17:00

② 登録・応募方法

* Webによる手続きを利用するためには、Google アカウントが必要となる。

・登録・応募先

デザコン 2024in 阿南公式ホームページ>「空間デザイン部門」>「エントリー」から

<https://デザコン.com/>

・登録時に応募ポスターのデータを提出する（（2）参照）。

③ 受付確認：入力した代表者と指導教員のメールアドレスに受付確認メールを自動配信する。

* メールアドレスについては入力ミスがないように十分確認すること。

(2) 提出物

① 応募ポスターのデータ

・ポスターのサイズ：A1 サイズ（縦向きもしくは横向き）1枚

・ポスターの記載内容：設計趣旨，図面（建築物の場合は配置図，平面図，立面図，断面図等，土木構造物・都市農村空間等の場合は配置図兼平面図，縦横断図等），その他として透視図，模型写真，イラスト等を適宜選択し，表現すること。

・使用言語：設計趣旨等の主たる言語は日本語もしくは英語とすること。

* ポスターには，応募者の氏名・所属が判別できる情報を記入しないこと。

・データのファイル形式：PDF(.pdf)

・データサイズ：100MB 以下

・ファイル名：[高専名(・キャンパス名)_代表者学生氏名]

* 「高専」「キャンパス」の文字は除く。

例) 阿南_高専太郎.pdf または 香川_高松_高専花子.pdf

(3) 予選審査費

① 1 作品：2,000 円

② 振込期限：2024年8月19日(月)

③ 振込口座

銀行名：徳島大正銀行

店名：阿南支店

店番：002

預金種目：普通預金

口座番号：8584393

口座名義：アナンコウギョウコウトウセンモンガツコウガクセイガカリアズカリキン

振込者名：「部門名称（空白）高専名の略称（空白）担当者名」とする。

例) クウカン アナン コウセンタロウ

* 振り込まれた予選審査費は，いかなる場合においても返金には応じない。

4. 質疑応答

募集要項の内容(課題内容, 設計条件)に関する質疑応答は行わない。ただし, 日程および提出方法などの事務的な質疑については, 下記の期間・方法にて受け付ける。

- ① 受付期間 : 2024年4月22日(月)~5月7日(火)17:00
- ② 質問方法
 - * Web による手続きを利用するためには, Google アカウントが必要となる。
 - デザコン 2024in 阿南公式ホームページ>「空間デザイン部門」>「質疑受付」から
<https://デザコン.com/>
- ③ 回答公開 : 5月中旬~5月下旬に, デザコン 2024 in 阿南公式ホームページの「空間デザイン部門」の「質疑応答」にて, 回答の内容を公開する。

5. 本選への参加

- ① 開催日程 : 2024年11月2日(土)・3日(日)
- ② 予選通過の通知 : 9月2日(月)頃にデザコン 2024 in 阿南公式ホームページに公開するとともに, 予選通過チームの代表者と指導教員のメールアドレスに直接通知する。
- ③ 本選出場要項等 : 9月2日(月)頃にデザコン 2024 in 阿南公式ホームページに公開するとともに, 予選通過チームには予選通過の通知とともにお知らせする。
- ④ 本選参加費
 - ・1名 : 1,800円
 - ・振込期限 : 2024年10月22日(火)
 - ・振込口座 : 3.(3)③と同様
 - * 振り込まれた本選参加費は, いかなる場合においても返金には応じない。

6. 応募資格

- (1) 高等専門学校に在籍する本科生及び専攻科生とする。
- (2) チームは, 1 から 4 名で構成する。
- (3) チームメンバーの所属する学科や専攻は問わない。
- (4) 同一人物が空間部門の複数チームに参加することは認めない。
- (5) 同一人物の予選へのエントリー制限について

デザコン 2024 in 阿南では, 空間デザイン部門・創造デザイン部門・AM デザイン部門の 3 部門のうち 1 部門にしか応募できない。ただしこの 3 部門で予選通過できなかった場合には, 構造デザイン部門への応募を可とする。

7. 審査員及び審査方法

審査は、予選、本選ともに次の審査員が行う。なお、本選は公開審査とする。

委員長：羽藤英二（東京大学大学院教授，博士（工学），技術士（建設部門））

副委員長：三澤文子（建築家，Ms 建築設計事務所代表，一級建築士，住宅医）

委員：堀井秀知（弁護士，防災士，浅田法律事務所）

8. 表彰

- (1) 最優秀賞(日本建築家協会賞(予定)) 1 点
- (2) 優秀賞 2 点
- (3) 審査員特別賞 2 点
- (4) 企業賞数点

9. 著作権等

提出作品の著作権はそれぞれの製作者に属するが、主催者はこれを書籍等の印刷物への掲載また Web 等で公開する権利を有し、これを妨げないものとする。オフィシャルブックには応募作品とともに応募学生名、指導教員の氏名が記載される。また、肖像権の取り扱いについては、参加者からの申し出がない場合、肖像権の使用に同意を得たものとする。なお、予選に提出された応募作品についても公開を予定している。

なお、作品に掲載する図表、文章などはオリジナルのものを使用すること。特に地図等を二次利用する場合には著作権法上留意をして用いること。

10. 付記

- (1) 応募作品には他のコンテスト、コンペティションに応募したものを使用してはならない。
- (2) 応募要項に違反した場合は失格となる場合がある。
- (3) 応募作品は返却しない。
- (4) 応募作品の取り扱いにおいて、主催者は最善の注意を払うが、天災等の不可抗力による損傷に関しては、責任を負いかねる。また、輸送時の損傷についても主催者は一切責任を持たない。
- (5) プレゼンテーション資料の作成にあたっては、全国高等専門学校デザインコンペティションの趣旨に則った適切な表現を用いること。

空間デザイン部門 予選エントリー一覧

高専名（キャンパス名）	氏名（○ 代表者）
釧路高専	○松江 裕哉, 上田 康太郎, 金子 大晟
釧路高専	○森 美結, 大島 宗高
釧路高専	○水口 敬太
釧路高専	○佐藤 澄果, 狩野 由奈, 竹田 早希
釧路高専	○飯田 圭人, 志谷 富海也
仙台高専・名取キャンパス	○田邊 優和, 武蔵 翔, 小林 桃子
仙台高専・名取キャンパス	○吉田 勝斗, 本田 佳奈絵, 佐々木 心音, 草野 伶旺
仙台高専・名取キャンパス	○高野 莉緒, 畠山 綺, 志賀 光, 大河原 煌生
仙台高専・名取キャンパス	○河西 絵里奈, 佐々木 環, 丹野 和奏, 國府田 かつ子
仙台高専・名取キャンパス	○早坂 凜, 佐藤 想乃, 佐藤 瑞姫, 関 悠月
仙台高専・名取キャンパス	○早坂 真之介, 齊藤 純寛, 齋藤 匠, 俵谷 響
仙台高専・名取キャンパス	○桃井 亜里紗, 齋藤 花楠子, 成田 さわ
仙台高専・名取キャンパス	○加藤 颯, 白戸 杏南, 大越 綾乃, 遠藤 あやの
仙台高専・名取キャンパス	○長沼 杏, 根本 香梨, 佐藤 新夏
仙台高専・名取キャンパス	○齋藤 温, 織田 麟平, 福山 遥冬, 岩間 陸世
仙台高専・名取キャンパス	○佐藤 唯央, 菅原 沙弥翔, 小野寺 遥香, 鈴木 璃莉
仙台高専・名取キャンパス	○中村 向日葵, 吉岡 冬雪, 岩本 瑛
仙台高専・名取キャンパス	○長谷部 大夢, 猪狩 奈那, 鈴木 拓跳, 三浦 靖弘
仙台高専・名取キャンパス	○竹内 駿翔, 伊藤 弓史, 齋藤 陽希
仙台高専・名取キャンパス	○齋藤 由良, 高野 昊樹, 櫻井 青輝, 山口 衣音
秋田高専	○小林 瞳子, 佐々木 悠介, 伊藤 優希菜
鶴岡高専	○池田 夢叶, 遠藤 嘉人, 丹野 瑛太, 佐藤 圭悟
小山高専	○大平 稔矩, 安田 莉央, 吉葉 風子, 西山 陽翔
石川高専	○北川 真, 本馬 颯太, 清水 彩也乃, 諸橋 茉歩
石川高専	○鋤柄 満帆子, 安藤 望心, 高野 凜夏, 安井 幹造
石川高専	○森田 はるか, 東 稜子
石川高専	○室岡 姫奈, 本山 愛紗, 宇野 蒼唯
岐阜高専	○水口 聖菜, 中谷 文乃, 大石 爽真
岐阜高専	○土田 翔月
岐阜高専	○池田 光詠, 岡本 奏, 早川 純平
岐阜高専	○加藤 幸之助
岐阜高専	○佐藤 梅香
豊田高専	○小柴 雄大, 工藤 大翔, 塚田 博喜, 内藤 壮馬
豊田高専	○加藤 桃佳, 木田 琴奈, 藤岡 小温, 細田 明良
豊田高専	○横越 清高, 中村 かのん, 石井 香凜, 後藤 由奈
豊田高専	○角野 心音, 井戸 あかり, 杉山 さくら
豊田高専	○戸軽 大智, 神尾 瞭太郎, 古賀 舜大, 吉開 大貴
豊田高専	○鈴木 陽介, 谷 柊汰, 寺島 一翔
豊田高専	○金子 愛土, 神谷 陽輝, 田浦 瑠依, バン バンデット
豊田高専	○笠原 颯真, 井澤 琴萩, 廣田 菜都美, 宮本 ちかの
豊田高専	○佐野 琳香, 石田 琉愛, 島 瑞穂
豊田高専	○小松 峻太郎
舞鶴高専	○奥田 歩
舞鶴高専	○日下部 元喜
明石高専	○長野 晏大, 岸本 颯馬, 橋本 翠, 新井 万都里
明石高専	○田中 大登
明石高専	○鹿島 美羽, 丹野 裕己
明石高専	○増井 ゆふ美, 江口 茉央, 高木 まどか
明石高専	○早柏 拓途, 竹市 安里, 岸 環樹, 名子 純矢
明石高専	○古元 瑛翔, 今田 遼太郎, 植原 大翔, 阪田 暁音
明石高専	○横山 澄玲, 曾我 風太, 宇都 椋太, 的場 美咲
明石高専	○須原 千尋, 吉本 瑚春, 中前 稔, 川下 大輝
米子高専	○似内 暁彦
米子高専	○堀尾 真緒
米子高専	○渡邊 萌果
米子高専	○阿形 遼子, 野波 ふゆ, 松尾 夏実, 左近 愛菜

空間デザイン部門 予選エントリー一覧

高専名 (キャンパス名)	氏名 (○ 代表者)
米子高専	○谷野 彼方, 濱崎 大志, 三好 雪子, 藤江 桜良
米子高専	○植松 桜子, 黒田 礼奈, 田中 すずな
米子高専	○梅林 蒼, 瀬戸口 健人
米子高専	○松原 ひな子
米子高専	○浦林 丈人, 田中 悠羅
米子高専	○松本 結郁, 河崎 舞, 中島 奈々
米子高専	○赤路 素春, 浅田 溪達
呉高専	○林 青空, 積山 蒼人
呉高専	○岩部 想, 齋藤 和, 土屋 日陽香, 宮本 知輝
呉高専	○工藤 周悟, 栗栖 琴美, 竹本 快未
呉高専	○中野 愛子, 重高 雅道, 中川 皓晴, 中村 菜那
呉高専	○金谷 賢志朗
呉高専	○上木 優太郎, 福重 聖海, 宮本 倅之介
呉高専	○垣原 大輝, 妹尾 凌成, 柳井 秀斗, 山本 雄大
呉高専	○中浦 太智, 森谷 志麻, 白武 和, 石村 吏玖
呉高専	○橘高 雷士, 亀田 朋樹, 岩倉 輝
呉高専	○タン ブンリム, 藤野 弘大
呉高専	○阿地方 蓮, 釜山 菜太, 花房 拓磨, 森口 幹太
阿南高専	○四越 大嘉, 柿本 一成, 國原 優希, 松本 知大
阿南高専	○石山 航多, 小川 世晃, 竹内 遥人, 原 鳳介
阿南高専	○野村 芽以, 一色 美汐, 武澤 秋太郎, 前田 哲汰
阿南高専	○吉成 杏奈, 柿本 律葵, 吉田 好花
阿南高専	○高橋 颯太, 森 悠成, 野村 侑世, 井内 陽斗
阿南高専	○木村 響, 後藤 翼, 丸山 美莉, 新居 香麦
高知高専	○小松 野乃香
高知高専	○中澤 息吹, 辻 心美, 鎌倉 叶彩
高知高専	○山本 航士, 西山 里桜, 池田 美優, 佃 勇輝
高知高専	○切詰 紅羽, 小野川 隆生, 清水 聡太, 小松 温人
熊本高専・八代キャンパス	○野田 華凜, 林 小梅, 平田 菜々, テラウオンサトン タナポーン
熊本高専・八代キャンパス	○卯野木 海尋, 山下 大輝, 長尾 泰雅
熊本高専・八代キャンパス	○大西 沙世, 梅田 知華
熊本高専・八代キャンパス	○佐々木 陸翔, 桑原 愛翔, チャイ ソンキム
熊本高専・八代キャンパス	○三笠 華凜, 竹田 真麻, 中野 千尋, 野中 麗杏
熊本高専・八代キャンパス	○飯谷 彩乃
熊本高専・八代キャンパス	○寺本 芽生, 松崎 嵐, 尾上 翔稀, 松岡 侑聖
熊本高専・八代キャンパス	○村上 蓮
熊本高専・八代キャンパス	○田中 文裕, 光永 愛実, 江藤 直太郎, 徳本 豪海
熊本高専・八代キャンパス	○山田 ゆり, 佐生 恵美子, 〆 亮吾, 村崎 紅彩
熊本高専・八代キャンパス	○西村 羽誕, 小森田 夏実, 鬼塚 晏利, 梅木 心
都城高専	○藤井 颯太, 長友 優太, 児玉 茉優, 田中 美羽
都城高専	○津曲 世成, 中西 凜斗, 立石 海人, 村脇 穂菜実
都城高専	○松下 倅大
都城高専	○吉丸 颯一
都城高専	○川野 莉奈
都城高専	○河野 百笑
鹿児島高専	○稲葉 陽大, 福永 大翔
鹿児島高専	○比良 香蓮, 村山 伶菜
サレジオ高専	○今任 唯, 菊地 玉笑, 鈴木 心寧, 菊池 里莉
サレジオ高専	○濱中 昂, 真鍋 歩希, 橋本 美乃, 林 譲葉
サレジオ高専	○村山 朔太郎, 西原 次郎, 相葉 悠海
大阪公立大学高専	○高城 優真
大阪公立大学高専	○森本 修誠
大阪公立大学高専	○兼山 智太
大阪公立大学高専	○森部 みさき
大阪公立大学高専	○森本 貫士
大阪公立大学高専	○平岡 佳大

デザコン2024 空間デザイン部門 予選通過作品 2024/9/2

エントリーNo.	作品名	高専・キャンパス名
33	ため池と生きるまち	仙台高専・名取キャンパス
34	両城解体	呉高専
51	コスモプレイス～津波避難タワー×市民交流施設×宇宙で導く新しい防災空間のカタチ	鹿児島高専
53	カキハシ	呉高専
57	うみ・ひと・まち・消防団 -未来へつなぐ防災意識-	仙台高専・名取キャンパス
70	鳥取移住訓練～鳥取に来てみんなさい～	米子高専
71	瀬戸際を生き抜く登り窯	豊田高専
80	水と住まう	豊田高専
94	港の日常～桜島と生きる～	鹿児島高専
99	そらに刻む人形浄瑠璃 -津波を待つ空き家-	明石高専
110	私の集落は柑橘色	熊本高専・八代キャンパス

以上 11作品

第21回 全国高等専門学校デザインコンペティション 2024 in 阿南

「繫」

空間デザイン部門 本選出場要項

[テーマ：タテ×ヨコ]

1. 本選概要

本選では審査員からのブラッシュアップコメントを参照し、予選時の提案からより具体的に内容を深めた提案を成果物としてまとめると共に、各チームが本選会場において対面発表してもらいます。2日間で異なる3つのプレゼンテーションを行い、公開審査により、入賞作品を選出します。なお、インターネットによるライブ配信はありません。

2. 審査・作品展示会場

阿南工業高等専門学校 地域連携・テクノセンター 4階 マルチメディア室
(徳島県阿南市見能林町青木265)

Tel: 0884-23-7100

3. 提出物及び作品展示について

(1) プレゼンテーションポスター

- ・パネル化は自由とします。
- ・サイズはA1サイズとし、縦横は自由とします。
- ・枚数は2枚までとします
- ・印刷したプレゼンテーションポスターを2024年10月30日（水）～2024年10月31日（木）17時までに阿南高専必着で提出してください。外部の箱等のよく見える位置にエントリーNo. + 高専名（例：999阿南高専）と記載をしてください。
- ・郵送されたプレゼンテーションポスターは阿南高専内で保管をします。前日または当日の指定の時間に保管場所より会場まで移動をさせてください。

(2) プレゼンテーションポスターのPDFデータ

・2024年10月31日（木）17時までに所定のウェブフォームよりアップロードすること。URLは次の通りです。

<https://forms.gle/ZYXr92gwynhjWfCg7>

- ・PDFデータのファイル名は、エントリーNo. + 高専名（例：999阿南高専）としてください。2枚ある場合には、データファイルを分けずに、一つのPDFデータとして下さい。また、印刷をして審査資料として使用しますので、セキュリティはかけないでください。
- ・大会運営者側の過失によるものを除き、提出期限までにプレゼンテーションポスターを提出していない場合には棄権とみなします。

(3) 模型

- ・サイズ指定はありませんが、幅1800mm×奥行1800mmの展示台1台（MDF製、台の床面はFL+200mm、天井高さは3000mm）の作品展示ブース内に納まるものとしてください
- ・模型は、2024年10月30日（水）～2024年10月31日（木）17時までに阿南高専必着で提出してください。外部の箱等のよく見える位置にエントリーNo. +高専名（例：999阿南高専）と記載をしてください。
- ・郵送された模型は阿南高専内で保管をしますので、前日または当日の指定の時間に保管場所より会場まで移動をさせていただきます。

(4) スライドショーデータ

- ・スライドサイズの指定はありません。
- ・2024年10月31日（木）17時までに所定のウェブフォームよりアップロードすること。URLは（2）プレゼンテーションポスターのPDFデータのアップロードフォームと同じです。
- ・pptxデータのファイル名は、エントリーNo. +高専名（例：999阿南高専）としてください。また、セキュリティはかけないでください。

(5) その他の表現方法

- ・プレゼンテーションポスター、模型、スライドショーデータの他に、動画やAR等を使用しても構いません。また、身体表現等を含んでも構いません。

(6) 作品展示について

- ・上記の提出物について、下図に示すように1作品ごとに幅1800mm×奥行1800mmの展示台1台（MDF製、台の床面はFL+200mm、天井高さは3000mm）の作品展示ブースを提供しますので、その空間に作品の世界観を表現してください。また、55型モニター（脚付き）1台（付属物：HDMIケーブル（3m）×1本、OAタップ6個口（5m）×1本）、幅850mm×高さ1500mm程度以上の仕切りパネル（MDF製）2枚、幅400mm×奥行400mm×高400mmの台（MDF製）2台を用意しており、必要に応じてそれらを使用して作品を展示することができます。ただし、作品は展示した際に審査や観覧をする上で安全性を保つものとしてください。

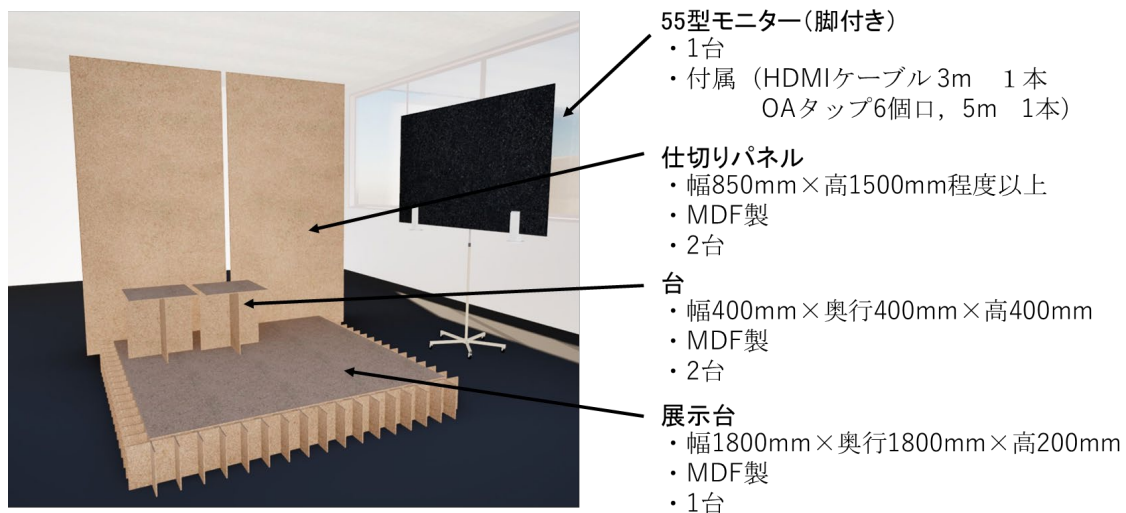


図 作品展示ブースのイメージ（軽微な変更がある可能性もある）

- ・作品の修正等のためのパソコンや模型道具等は各自で用意をしてください。
 - ・ワークショップでの議論に用いるため、製図板（A3）、ケント紙、ポストイット75*75（混色）、マジック8色等は会場側で用意をします。
 - ・プレゼンテーションポスターや模型の保管場所から作品展示会場までの移動、作品展示会場での展示準備は、2024年11月1日（金）13時～17時、11月2日（土）8時30分～9時30分までとします。11月2日（土）9時30分からはオリエンテーションを行い、10時よりプレゼンテーションを開始しますので、必ず9時30分までに準備を終えるようにしてください。
 - ・スライドショーデータを55型モニタに表示させる場合には、パソコンやタブレット端末の持ち込みをお願いします（事務局への事前の相談は不要です）。なお、パソコンやタブレット端末を貸与することはありませんのでBYODとしてください。ただし、本校側で各チームにHDMIケーブル（3m）×1本を会場に用意しています。電源については会場内の電源を使用可能です。
 - ・照明器具、パソコンやタブレット端末を除く電子機器（プロジェクター、3Dディスプレイ、VR/ARゴーグル）等を持ち込む場合には事前に事務局に相談をしてください。電気容量等が過大な場合にはポータブル発電機等の持ち込みをお願いする場合があります。
 - ・パソコンやタブレット端末、照明器具、電気機器等は前日もしくは当日の指定時間に直接持ち込むこととし、郵送は行わないで下さい。また、返送も本校からは行うことができないため注意すること。
 - ・パソコンや照明器具、電子機器等について、故障や盗難などについて本校側の過失によるものを除き責任をとれませんので、ご自身の責任で持ち込み、保管をお願いします。
- なお、11月1日（金）17時から11月2日（土）8時30分まで、11月2日（土）19時から11月3日（日）8時30分までは展示会場を施錠します。
- ・インターネット接続については、各自で対応をしてください。eduroamの使用は可能です。

（7）プレゼンテーションポスター・模型の送付先について

- ・プレゼンテーションポスターと模型は、下記の住所へ2024年10月30日（水）～2024年10月31日（木）17時までには必着で提出してください。

<宛先>

〒774-0017 徳島県阿南市見能林町青木265

阿南工業高等専門学校 デザコン 空間デザイン部門

<依頼主名の表記>

高専名・エントリーNo.・代表者氏名

- ・プレゼンテーションポスターと模型の梱包については輸送時に破損等のないように万全を期してください。また、学内での移動時において雨天の場合の備えもお願いします。
- ・プレゼンテーションポスターと模型の開封および設置や、審査後の梱包と返送作業等については、各高専の学生・教員で行ってください。なお、届いた荷物の取り扱いについては十分に注意して行いますが、作業で生じた破損等については一切責任を負いかねますのでご了承ください。

(8) その他

- ・オフィシャルブック用に展示物の写真撮影を予定しています。11月2日（土）の午前中に写真撮影する予定です。
- ・応募者の荷物は自身で管理をするとともに、作品展示会場全体が空間作品であることを理解し、審査員による審査や一般鑑賞者の鑑賞を妨げないよう整理整頓を行うこと。
- ・作品展示会場での飲食は不可とする。ただし、熱中症対策のため、蓋のついた容器に入っている飲み物については許可をする。ごみなどは全て持ち帰ること。
- ・予選応募作品について会場内に設置しているiPadで閲覧が可能です。

4. スケジュール

10月31日（木）＜前々日＞

- | | |
|---------|---|
| 17:00まで | ・プレゼンテーションポスター，模型の郵送物の到着期限
・プレゼンテーションポスターのPDFデータ，スライドショーデータのアップロード期限 |
|---------|---|
-

11月1日（金）＜前日＞

- | | |
|-------------|--|
| 13:00～17:00 | ・受付
・プレゼンテーションポスター，模型の郵送物の保管場所から作品展示会場への移動
・作品展示準備 |
| 17:00 | ・展示会場施錠（11月2日（土）8時30分まで） |
-

11月2日（土）＜本選1日目＞

8:30	・展示会場開錠
8:30～9:30	・受付 ・プレゼンテーションポスター，模型の郵送物の保管場所から作品展示会場への移動 ・作品展示準備
9:30～9:55	・オリエンテーション ・審査員，インターミディエータの紹介 ・規定違反の有無を確認（違反を指摘された場合は，すみやかに指示に従ってください。指示に従えない場合は失格とします） ・展示ブースの撮影（オフィシャルブック用）
10:00～12:00（予定）	・プレゼンテーション①：「つなぐ」ワークショップ
12:00～12:30（予定）	・集合写真撮影 ・変更のあったプレゼンテーションポスターのPDFデータとスライドショーデータのアップロード
13:00～17:00（予定）	・プレゼンテーション②：「つたえる」プレゼンテーション
17:30～18:30（予定）	・「つながる」エクスカージョン
19:00	・展示会場施錠（11月3日（日）8時30分まで）
終日	・予選作品の紹介（会場内iPad）

11月3日（日）＜本選2日目＞

8:30	・展示会場開錠
8:30～8:55	・受付 ・オリエンテーション ・グループ分けの発表 ・必要に応じて作品の移動
9:00～10:15（予定）	・プレゼンテーション③：「たかめあう」クリティーク
10:30～12:00（予定）	・公開作品審査 ・講評
12:00～13:00	・作品搬出
14:00～	・展示会場撤去
終日	・予選作品の紹介（会場内iPad）

5. 審査方法について

●プレゼンテーション①：「つなぐ」ワークショップ（1日目午前）

- ・時間は120分とする。
- ・各チームは自身の作品展示ブースにおいて、各チームに配置された数名のインターメディアエーターに対しプレゼンテーションポスター、模型およびスライドショーデータ（動画やAR等を用いてもよい）、その他身体表現等を用いたプレゼンテーションを行い質疑に答え、それを参考にして共に作品のブラッシュアップを行う。
- ・「インターメディアエーター」とは技術者、行政関係者、市民、小中高生などの多様性のあるメンバーで構成をされる各チームの作品を共に考えてくれる仲間のことである。
- ・プレゼンテーションにあたり、映像を投影するために55型モニターを使用する、ワークショップを行うために作品展示ブースを使用する、身体表現や模型設置のために展示台を使用するなど、表現方法は自由とする。ただし、作品は展示した際に審査や観覧をする上で安全性を保つものとしてください。
- ・「作品のブラッシュアップ」とは、プレゼンテーションポスター、模型およびスライドショーデータ（動画やAR等を用いてもよい）、その他身体表現等の更新を意味する。ただし、プレゼンテーションポスターの印刷機等の用意は会場にはない。
- ・ワークショップの最後には、各チームがワークショップの成果について、審査員に向けて発表を行う。発表時間は1チーム辺り1分とする。発表の順番は最初は挙手式とし、その後は発表者が次の発表者を指名する方式により行う。
- ・プレゼンテーション①：「つなぐ」ワークショップの終了後、30分程度の制限時間を設け、変更のあったプレゼンテーションポスターのPDFデータとスライドショーデータのアップロードを行う。なお、変更がない場合には、その旨を事務局に伝えるようにしてください。URLは当日お知らせします。
- ・PDFデータ、pptxデータのファイル名は、エントリーNo. + 高専名 + 変更（例：999阿南高専変更）としてください。また、セキュリティはかけないでください。

●プレゼンテーション②：「つたえる」プレゼンテーション（1日目午後）

- ・各チームは審査員に対して、プレゼンテーション①：「つなぐ」ワークショップでブラッシュアップしたプレゼンテーションポスター、模型およびスライドショーデータ（動画やAR等を用いてもよい）を用いたプレゼンテーションを行う。
- ・プレゼンテーションの場所は、各チームの作品展示ブースの周辺とし、審査員が移動する形式でプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションにあたり、映像を投影するために55型モニターを使用する、ワークショップの結果を作品展示ブースに掲示する、身体表現や模型設置のために展示台を使用するなど、表現方法は自由とする。ただし、作品は展示した際に審査や観覧をする上で安全性を保つものとしてください。
- ・プレゼンテーションの時間は各チーム8分間とする。その後、審査員から質疑の時間を12分間設ける。
- ・発表の順番はプレゼンテーション①：「つなぐ」ワークショップの最終発表者を最初とし、その後は発表者が次の発表者を指名する方式により行う。

●「つながる」エクスカージョン（応募者と審査員との懇親会）（1日目夕方）

- ・時間は60分間とする。
- ・「つながる」エクスカージョンは、チーム同士や各チームと審査員との懇親会です。互いの作品を鑑賞し、意見交換を行う機会とします。
- ・場所は、作品展示会場において行います。
- ・簡単な軽食を事務局側で用意をします。展示されている作品を汚したり、傷つけたりしないように十分に注意をしてください。
- ・参加は自由とし、参加の可否により審査に影響はないものとします。

●プレゼンテーション③：「たかめあう」クリティーク（2日目午前）

- ・時間は60分間程度とする。
- ・各チームを3グループに分けて行う。グループ分けは審査員が作品の傾向等を考慮して行い、当日発表する。なお、作品を移動させる場合もあるため、その場合には協力をしてください。
- ・各グループに1名の審査員が入り、プレゼンテーション②：「つたえる」プレゼンテーションでとらえた課題や当事者性、創作した空間デザインについて20分間、批評を行いあう。批評とその応答を通じて、当事者性や自らの生き方を支える空間デザインとなっているかに自ら気づいていくことを期待しています。20分経過後、審査員は別のグループに移り、再び20分間の批評を行う。これを計3回繰り返します。各グループに参加する審査員は批評に参加をしながら審査を行う。
- ・各グループに事務局側から司会を設けることはありません。各グループ内で順次メンバーが自主的にファシリテーションを行うなど、積極性をもって取り組んで下さい。

●公開作品審査（2日目午前）

- ・以上のプレゼンテーション①②③の内容を総合的に鑑みて、審査員は公開にて作品を審査する。審査中に更にプレゼンテーションの実施や発言を求める場合もあるため、各チームは自身の作品展示ブースで待機してください
- ・審査員は最優秀賞1点、優秀賞2点、審査員特別賞2点を決定する。企業賞については、最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞以外の作品の中から各企業が選定をする。

6. 参加費

・本選参加費は参加者1名あたり1,800円とし、本選参加費は2024年10月22日(火)までに以下の口座に振り込んでください。

振込口座

銀行名：徳島大正銀行

店名：阿南支店

店番：002

預金種目：普通預金

口座番号：8584393

口座名義：アナンコウギョウコウトウセンモンガツコウガクセイガカリアズカリキン

振込者名：「部門名称（空白）高専名の略称（空白）担当者名」とする。

例) クウカン アナン コウセンタロウ

*振り込まれた本選参加費は、いかなる場合においても返金には応じない。

7. プレゼンテーションポスター・模型等の返送について

- ・会場からの配送については受付にてヤマト運輸の着払い伝票をお渡しします。
- ・荷物一つあたりの三辺合計が260cm以内かつ50kg以内となるよう梱包してください。

8. その他

- ・応募作品の著作権は基本的に製作者に帰属しますが、主催者の使用を妨げないものとします。
- ・オフィシャルブックには応募作品と共に指導教員の氏名が記載されます。また、肖像権の取り扱いについては、参加者からの申し出がない場合、肖像権の使用に同意をいただいたものとします。
- ・本要項に変更があった場合は、指導教員にメールで連絡または本選オリエンテーション時に説明します。
- ・事情により、各種変更が生じる場合があります。ご迷惑をおかけしますがご理解、ご協力のほどよろしくお願い致します。なお、空間デザイン部門の本選開催に関して、質問等がありましたら、事務局（阿南高専学生課）にご連絡ください。直接、空間デザイン部門の教職員へ連絡することは、スムーズな大会準備を妨げるものになりますのでお控えください。

デザコン 2024 in 阿南 受賞一覧

空間デザイン部門	No.	高専名	作品名
最優秀賞（日本建築家協会会長賞）	71	豊田高専	瀬戸際を生き抜く登り窯
優秀賞	34	呉高専	両城解体
優秀賞	80	豊田高専	水と住まう
審査員特別賞	57	仙台高専・名取キャンパス	うみ・ひと・まち・消防団 -未来へつなぐ防災意識-
審査員特別賞	94	鹿児島高専	港の日常～桜島と生きる～
建築資料研究社／日建学院賞	70	米子高専	鳥取移住訓練～鳥取に来てみんなさい～
三菱地所コミュニティ賞	110	熊本高専・八代キャンパス	私の集落は柑橘色
ベクターワークスジャパン賞	99	明石高専	そらに刻む人形浄瑠璃 -津波を待つ空き家-

第 21 回 全国高等専門学校デザインコンペティション 2024 in 阿南「繫」

構造デザイン部門 募集要項

【テーマ：つなげる架け橋】

【課題概要】 阿南大会では、2019 年東京大会から続いている紙を素材とした橋のデザインを競います。本大会では、載荷直前に 2 つ以上の部材を“つなぎ”1 つの橋にします。そして、本大会の課題は、2023 年舞鶴大会と同様です。舞鶴大会での取り組みを活かし、阿南大会でも固定荷重および衝撃荷重に耐える橋とします。素材の特徴をよく捉えてこれらの条件を満足させる「耐荷性」、「軽量性」、「デザイン性」に優れた橋を製作してください。

1. 競技内容

所与の支点間隔で支持される橋梁（作品）を製作し、耐荷性、軽量性、デザイン性、創造性等を競う。

(1) 審査方法

- ① 競技得点 競技得点は、以下の通りとする。詳細は、「(3) 競技方法」を参照のこと。

$$\begin{aligned} \text{競技得点} &= (\text{静的載荷得点 } 40 \text{ 点} + \text{衝撃載荷得点 } 30 \text{ 点} + \text{軽量点 } 20 \text{ 点}) \\ &\quad \times \text{設置時間係数}(1.0, \text{遅延 } 0.9) \\ &\quad \times \text{部材数係数(部材数 } 2: 1.0, 3: 1.1, 4: 1.2) \\ &= 108 \text{ 点満点} \end{aligned}$$

- ② 審査員評価点 審査員評価点として、審査員は以下の項目で評価する。詳細は、「(3) 競技方法」を参照のこと。なお、本大会では作品への着色に関する評価は行わない。

$$\begin{aligned} \text{審査員評価点} &= \text{「作品の構造的合理性」}9 \text{ 点} + \text{「作品の独自性」}9 \text{ 点} \\ &\quad + \text{「プレゼンテーションポスターの出来栄」}9 \text{ 点} \\ &\quad + \text{「審査員からの質疑応答」}3 \text{ 点} \\ &= 30 \text{ 点満点} \end{aligned}$$

上記、①および②の合計点より得点順位を得る。なお、同点の場合は、軽量点が高い方を上位とする。

(2) 設計および製作条件（詳細は図 1 以降を参照）

① 構造形式

- ・ 水平支間長 900mm で、分割された 2 から 4 つの部材を指定する位置（以下「継手の重複可能部分」）にて乾式で、かつ、部材以外の部品等（例えば、くさびや込み栓等）を用いずに接合し、1 つの橋梁となる 2 点単純支持（両端ピン支持）形式の橋梁とする。また、部材の接合作業も競技の設置時間に含めるため、容易に接合できる構造とする。
- ・ 部材および部材を接合した 1 つの橋梁は、製作限界に収まる大きさにしなければならない。加えて、橋長は載荷治具等のセッティング荷重（「(3) 競技方法 ④セッティング荷重」参照）が作用した状態で 900mm 以上を確保すること。
- ・ 乾式による継手の重複可能部分は、図 1 に示す通り部材数（2、3、4）に応じて位置が異なる。そして、継手の重複可能部分は 150mm の範囲とする。また、分割された部材を接合して 1 つの橋梁としたときに一方の部材が継手の重複可能部分を越えて製作することはできない。
- ・ 部材は、接合時に変形（部材の一部および全体を折る、丸める、破く、縮める、伸ばす）しないものとする。

② 使用材料

使用可能な材料は、紙と木工用ボンドとする。紙は表 1 に示す商品に限る。同等品の使用は不可とする。木工用ボンドは、主成分が酢酸ビニル樹脂系エマルジョン形で、表 2 に示す商品に限る。

表 1 使用可能なケント紙の例

	メーカー・品名・型番	秤量(g/m ²)	紙厚(mm)	サイズ
1	コクヨ・高級ケント紙・セ-KP18	157	0.19	A3
2	コクヨ・高級ケント紙・セ-KP28	210	0.22	A3
3	菅公工業・ケント紙・ベ 063	157	0.19	A3
4	muse・KMK ケント断裁品#200・8切	180		8切

表 2 使用可能な接着剤の種類

	メーカー	製品名
1	コニシ	木工用 CH18
2	セメダイン	木工用 605

③ 部材の加工・接着

部材の製作において、紙を任意形状に切ったり、折ったり、よじったり、丸めたりしてもよい。一度溶かすなど使用材料の原形をとどめないような使い方は不可とする。紙同士をボンドで接着してもよい。複数枚の紙をボンドで貼り合わせてもよい。ただし、単に紙自体の強度を増すなど、接着以外の目的で含浸処理を施さないこと。NC 工作機やレーザー加工機などによる自動切断・マーキングなどの加工も可能とする。

④ 印刷・着色

紙および製作物への着色およびプリントは行わない。

⑤ 支持条件

- ・ 橋梁を載せることができる支持部は、2 箇所まで水平支間長 900mm とする。
- ・ 支点の形状は、図 4、5、6 に示す通り等辺山形鋼（一辺 50mm）とし、2 点とも水平方向に移動不可能な支持条件とする。耐荷試験時に橋梁を載荷装置へ設置する際、橋梁が支点と接することができるのは、山形鋼頭頂部のみとする。また、載荷により橋梁が変形した場合には山形鋼の他の面に接触しても構わない。
- ・ 支点 Rb は、衝撃荷重を載荷するために上段と下段に分かれている。支点部上段には下段に設置されているガイドボルト（M10）を通す孔がΦ15mm であけられているため、競技中、水平支間長に多少の変化が生じる。そのことを前提に各条件を満足する橋梁とすること。

⑥ 載荷条件

橋梁への載荷は、静的荷重と衝撃荷重の 2 種類とする。

(a) 静的荷重

図 2 に示す橋梁上面の支間中央から左右それぞれ 25mm の位置である Sa 点および Sb 点に載荷治具を同じ高さの位置に置き、載荷治具の他端同士を Sc 点でΦ22 の丸鋼を通し、その両端にナットを取り付ける。

なお、載荷治具（Sa 点、Sb 点）は、橋梁の上面で位置あれば、製作限界内に入っても構わない。Sa 点および Sb 点の高さは、橋梁を水平に置いたとき同じ高さとなるようにする。そして、載荷装置に設置した際に支点の高差分だけ Sb 点が Sa 点より高くなるようにする。その時、製作誤差による高さのずれについては許容するものとする。ただ

し、橋梁の変形によって、Sa および Sb にある载荷治具の丸鋼が左右にずれることがないように、左右へのズレ止め機構（例えば、丸鋼が収まるくぼみ等）を施すようにする。ズレ止め機構の条件については、図 12 に示すものとする。载荷点 Sa および Sb を繋ぐ载荷治具を構造材として利用することはできないこととする。

Sc 点を通す丸鋼の中央には、载荷ワイヤー（鎖、もしくは、鎖状のもの）が掛けられる吊りピースが付いている。この吊りピースと载荷ワイヤーを結合することにより荷重を载荷する。なお、载荷ワイヤーを吊りピースに結合する際は、おもり受けと防振マットの距離を約 50～100mm を確保することとする。

(b) 衝撃荷重

後述する所定の静的荷重を载荷した後、衝撃荷重の载荷を実施する。衝撃荷重は、支点 Rb の上段と下段の鋼板の間にあるナット（六角ナット 1 種 M36）4 個を取り除き、支点部上段の落下により加える。その時、ナットの高さ 29mm が衝撃荷重载荷時の落下高さとなる。

(3) 競技方法

① 仕様確認

仕様確認では、部材・橋梁の質量・橋長の計測のほか、以下の項目について検査を行う。

- ・ 部材数および部材が製作限界に収まっているか、確認用ケース内に部材が収まっていることで確認する。
- ・ 部材を 1 つの橋梁に接合し、橋梁が製作限界に収まっているか、確認用ケース内に橋梁が収まっていることで確認する。
- ・ 使用材料が規定と相違はないか。
- ・ 継手の重複可能部分の範囲が 150mm 以内かを確認する。

② 作品の質量計測

大会当日の計量にはエー・アンド・デイ製 EK-4100i（秤量 4kg、最小表示 0.1g）を使用する。

③ 審査員による審査

橋梁の設計趣旨、構造、デザイン性等について、橋梁およびプレゼンテーションポスターの評価により審査を行う。

- ・ 評価項目は、「作品の構造的合理性」、「作品の独自性」、「プレゼンテーションポスターの出来栄」、「審査員からの質疑応答」である。
- ・ 評価項目「作品の構造的合理性」、「作品の独自性」、「プレゼンテーションポスターの出来栄」については、事前に提出されたプレゼンテーションポスターおよび大会当日の展示橋梁の巡回により審査する。
- ・ 評価項目「審査員からの質疑応答」については、大会当日の展示橋梁の巡回の際に審査員が行う質疑に対する回答により評価する。したがって、審査員の巡回時には各チーム 1 名が橋梁の前で待機すること。なお、チームメンバーがプレゼンテーションを行う訳ではない点に注意すること。

④ セッティング荷重

载荷治具、スプリングフック、载荷ワイヤー、おもり受け等の総質量約 8kg がセッティング荷重として作用するが、このセッティング荷重は耐荷荷重には含めない。

⑤ 耐荷性能試験

耐荷性能試験の登壇者は、各チーム 3 名以内とする。登壇者は、ヘルメット、ゴーグル、軍手、安全靴を着用し、長袖、長ズボンの服装であることとする。なお、ヘルメット、ゴーグル、軍手については、主催者側で用意するが、安全靴は各高専で準備すること。以下、(a)～(e)に耐荷性能試験の詳細を示す。

(a) 载荷順

競技は、3 台もしくは 4 台の载荷装置を用い、3 組もしくは 4 組同時に载荷試験を実施する。载荷順については、原則として質量の重い順（軽量点の低い順）とする。同一高専で 2 橋を応募した場合（「3. 応募資格」に記載）、当該高専の 2 橋のうち質量の重い橋を 1 日目に载荷試験し、残りの橋を 2 日目に载荷する予定である。

(b) 载荷装置への設置

载荷装置への設置とは、以下の作業を完了することである。

- ・ 複数の部材を接合し 1 つの橋梁とする。
- ・ 載荷治具を橋梁へ設置する。
- ・ 橋梁を載荷台へ設置する。
- ・ 載荷治具の吊りピースと載荷ワイヤーとを結合し、おもり受けを防振マットから浮かせる。

すなわち、載荷装置への設置とは、セッティング荷重が橋梁に作用する状態にすることである。

載荷装置への設置は、「競技開始」の合図から 120 秒以内に行い、完了した時点で、手を挙げて競技審判に設置完了を知らせること。なお、合図があってから部材を 1 つにつなぐこととし、合図までは部材は分かれた状態にしておくこととする。合図から 120 秒を超過して設置が完了した場合は、載荷による得点に 0.9 を乗じた値が競技得点となる。設置完了後、競技審判が「支持条件」および「載荷条件」を満足しているかを 10 秒程度で確認する。

(c) 静的荷重の載荷

初期荷重は 10kg とし、40kg まで 10kg 刻みで静的荷重を載荷する。各載荷段階において、載荷後 10 秒間の耐荷状態の確認を競技審判が行った後、次の載荷を行う。なお、耐荷状態とは、おもり受けが防振マットに接していない状態のことである。おもり受けが防振マットに接した場合、橋梁に破断が生じていなくても「崩壊」しているものとみなして競技を終了する。また、図 12 に示すようにズレ止め機構の載荷治具 Sa 点および Sb 点の丸鋼が載荷試験中に橋梁内に 11mm を超えて入った場合は「崩壊」とみなして競技を終了する。

(d) 衝撃荷重の載荷

静的荷重 40kg に対して耐荷したことを確認でき次第、衝撃荷重の載荷を行う。

支点 Rb の上段と下段の鋼板の間にあるナット 4 個にはそれぞれ紐が通されており、それを引張ることでナットを取り除き支点部上段を落下させる。この時、ナットに通された紐以外に触れることはできない。ナット 4 個が確実に除去された時点から 10 秒間の耐荷状態（「(c) 静的荷重の載荷」記載と同様の状態）が確認できれば衝撃荷重に対して耐荷したこととする。なお、ナットの除去においては、一度に除去する個数や順序は指定しない。加えて、ナット 4 個を除去した時にガイドボルトに支点部上段の鋼板に設けた孔がボルトに引掛かり、支点部上段が斜めになった場合でも、ナット 4 個が除去されていれば耐荷状態の確認を行う。

(e) 競技得点

競技得点は、以下の式で算出する。

$$\begin{aligned} \text{競技得点} &= (\text{静的載荷得点 } 40 \text{ 点} + \text{衝撃載荷得点 } 30 \text{ 点} + \text{軽量点 } 20 \text{ 点}) \\ &\quad \times \text{設置時間係数}(1.0, \text{遅延 } 0.9) \\ &\quad \times \text{部材数係数}(\text{部材数 } 2: 1.0, 3: 1.1, 4: 1.2) \\ &= 108 \text{ 点満点} \end{aligned}$$

ここで、

- ・ 静的載荷得点：耐荷荷重の kg 数を点数とする（満点 40 点）。
- ・ 衝撃載荷得点：30 点
- ・ 軽量点：満点 20 点とし、軽量順で 1 位のチームに 20 点を与える。2 位以降については、1 位のチームの質量をチームの質量で除して、それに 20 点を掛けた点数を与える。（例えば、1 位のチームの質量が A、2 位のチームの質量が B である場合、 $(A/B) \times 20$ で計算した値を 2 位のチームの点数とする。3 位以下も同様の計算を行って点数を決める。）なお、作品を載荷装置にセットし、かつ、吊りピースと載荷ワイヤーの結合までを行い、「(c) 静的荷重の載荷」に入る前に耐荷状態でなくなった場合は軽量点の対象としない。
- ・ 設置時間係数：(b) 載荷装置への設置において 120 秒以内に設置が完了した場合、1.0 とし、設置が完了しなかった場合、0.9 とする。ただし、300 秒以内に設置が完了しなかった場合は、設置時間係数を 0.0 とし、参考載荷とする。
- ・ 部材数係数：橋梁を分割した部材数が、2 の場合：1.0、3 の場合：1.1、4 の場合：1.2、とする。

(4) 衝撃载荷時の注意事項

- ① ナットに通される紐の長さは、紐が結ばれている六角の直線部分から 1000mm±10mm とする。
- ② 「募集要項」p.13、図 5 に示されている位置にナットを置いた際、紐は支点部上段および下段の鋼板に挟まれていない状態である。
- ③ 橋梁の下に体の一部を入れた上でのナットの除去は非常に危険であり、禁止する（写真 1）。
- ④ ナットを除去する際、ナットの正面に立ち手前（胸の方向）に紐を引くと、飛んできたナットが体に当たる恐れがある。横や斜め後ろに引くなどしてナットとの接触が無いように気を付けること（写真 2）。

2. 応募方法等

Web による手続きとする。

(1) 募集要項に対する質疑

- ① 受付期間：2024 年 4 月 22 日（月）～ 5 月 7 日（月）17:00
- ② 質問方法：デザコン 2024 in 阿南公式ホームページ（<https://デザコン.com/>）の構造デザイン部門の「質疑受付」から行う（Google アカウント必要）。
- ③ 回答公開：5 月中旬～5 月下旬に、デザコン 2024 in 阿南公式ホームページの構造デザイン部門の「質疑応答」にて、回答の内容を公開する。あわせて、募集要項の更新も随時公式ホームページ上にて行う。

(2) エントリー手続き

- ① 受付期間：2024 年 9 月 17 日（火）～9 月 30 日（月）17:00
- ② 応募方法：デザコン 2024 in 阿南公式ホームページの構造デザイン部門の「エントリー」から行う（Google アカウント必要）。
- ③ 項目記入上の注意：

記入する項目は、・学校名 ・作品名（仮称でも構わないが同一高専で異なる名称とする） ・チーム学生ならびに指導教員に関する情報 である。

エントリーフォームには、システムの都合上、「4. 作品概要 作品概要を 400 字以内で簡潔に表現して下さい。」とあるが、本エントリー手続きにおいては提出を求めない（プレゼンテーションポスターの事前提出時に合わせて提出してもらう予定）。しかし、フォームには何らかの文字を入力しなければならない仕様となっている。そこで、仮に所属する学校名を入力すること（「舞鶴高専」など）。

また、「43. ファイルのアップロード」についても、ここではファイルのアップロードを求めないので、ファイルのアップロードは不要である（作業風景の写真、チームの集合写真をプレゼンテーションポスターの事前提出時に合わせて提出してもらう予定）。
- ④ 受領確認：エントリーの受付確認に関しては、エントリーで入力された代表者および指導教員のメールアドレスへ内容受付のメールを自動配信する。メールアドレスについては入力ミスがないように十分確認すること。
- ⑤ エントリーリストの公開：

2024 年 10 月 8 日（火）以降にデザコン 2024 in 阿南公式ホームページ上にリストを公開する。エントリーしたチームはエントリーリストを必ず確認し、エントリー受付漏れがあった場合は 2024 年 10 月 15 日（火）17:00 までに下記メールアドレスに連絡すること。2024 年 10 月 15 日（火）17:00 以降のエントリー訂正等は受け付けないので注意する。なお、エントリーの確認をもって、「全国高等専門学校デザインコンペティション 2024 in 阿南 構造デザイン部門」への出場権を得たものとする。

阿南工業高等専門学校 構造デザイン部門事務局 e-mail ; dc-24koko@anan-nct.ac.jp

(3) 本選への参加

本選は 2024 年 11 月 2 日（土）および 3 日（日）に実施する。本選の詳細「本選出場要項等」に関しては、9 月中旬にデザコン 2024 in 阿南公式ホームページにて公開する。参加チームは、① プレゼンテーションポスター、② 作品を大会当日に持参すること。

① プレゼンテーションポスター：

- ・ A2 サイズ（横向き）で作成し、大会当日の受付後に指定箇所に掲示する。
- ・ プレゼンテーションポスターには、1. 学校名、2. 作品名、3. コンセプト、4. 模型の写真、5. アピールポイント、の 5 項目を必ず記載すること。

② 作品：

- ・ 作品は原則大会当日に持参することとするが、宅配を希望する場合は後日公開する手続き方法に従うこと（外形 3 辺合計 140cm 以内の箱に入れ発送することを求める予定である）。

(4) プレゼンテーションポスターデータの事前提出

① 提出期間：2024 年 10 月 21 日（月）～ 10 月 28 日（月）17：00

② 提出方法：プレゼンテーションポスターデータの提出方法等の詳細は、本選出場要項に記載する。

※事前提出されたプレゼンテーションポスターは審査員による審査の対象となる。

(5) 参加費

- ・ 参加費は、1 チーム当たり 8,000 円とする。
- ・ 参加費は、2024 年 10 月 8 日（火）までに以下の口座に振り込むこと。
- ・ 振り込み者名は、「部門名称、空白、高専名の略称、空白、担当者名」とすること。

例) コウゾウ アナン 38 コウセンタロウ

- ・ 振り込まれた参加費ついて、いかなる場合においても返金には応じない。

【振込口座】

銀行名：徳島大正銀行
店名：阿南支店
店番：002
口座種別：普通預金
口座番号：8584393
口座名義：アナンコウギョウコウトウセンモンガツコウ ガクセイガカリアズカリキン

3. 応募資格

- (1) 高等専門学校に在籍する本科生及び専攻科生とする。
- (2) チームは個人もしくは6名以内のグループで構成する。
- (3) チームメンバーの所属する学科や専攻は問わない。
- (4) 同一人物が他部門も含め複数のチームに参加することは認めない。
- (5) 応募作品は各チーム1つとして、かつ、同一高専で2つまで応募できる。ただし、同じ高専で形や、構造コンセプト（力の流れや負担の仕組み）が同じ作品は認めない。そのような作品が提出された場合は、どちらかひとつの作品を参考載荷とする、もしくは競技参加を認めないことがある。

4. 審査員

委員長：中澤祥二（豊橋技術科学大学 教授）

委員：岩崎英治（長岡技術科学大学 教授）

委員：奥田秀樹（国土交通省 四国地方整備局 企画部 部長）

5. 表彰

- (1) 最優秀賞（国土交通大臣賞（予定））1点
- (2) 優秀賞2点
- (3) 審査委員特別賞2点

6. 著作権等

提出作品の著作権はそれぞれの製作者に属するが、主催者はこれを書籍等の印刷物への掲載また Web 等で公開する権利を有し、これを妨げないものとする。オフィシャルブックには応募作品とともに参加者、指導教員の氏名が記載される。また、肖像権の取り扱いについては、参加者からの申し出がない場合、肖像権の使用に同意を得たものとする。

7. 付記

- (1) プレゼンテーションポスターの作成にあたっては、全国高等専門学校デザインコンペティションの趣旨に則った適切な表現にすること。
- (2) 応募作品の取り扱いにおいて、主催者は最善の注意を払うが、天災等の不可抗力による損傷に関しては、責任を負いかねる。また、輸送時の損傷についても主催者は一切責任を持たない。
- (3) 応募要項に違反した場合は失格となる場合がある。

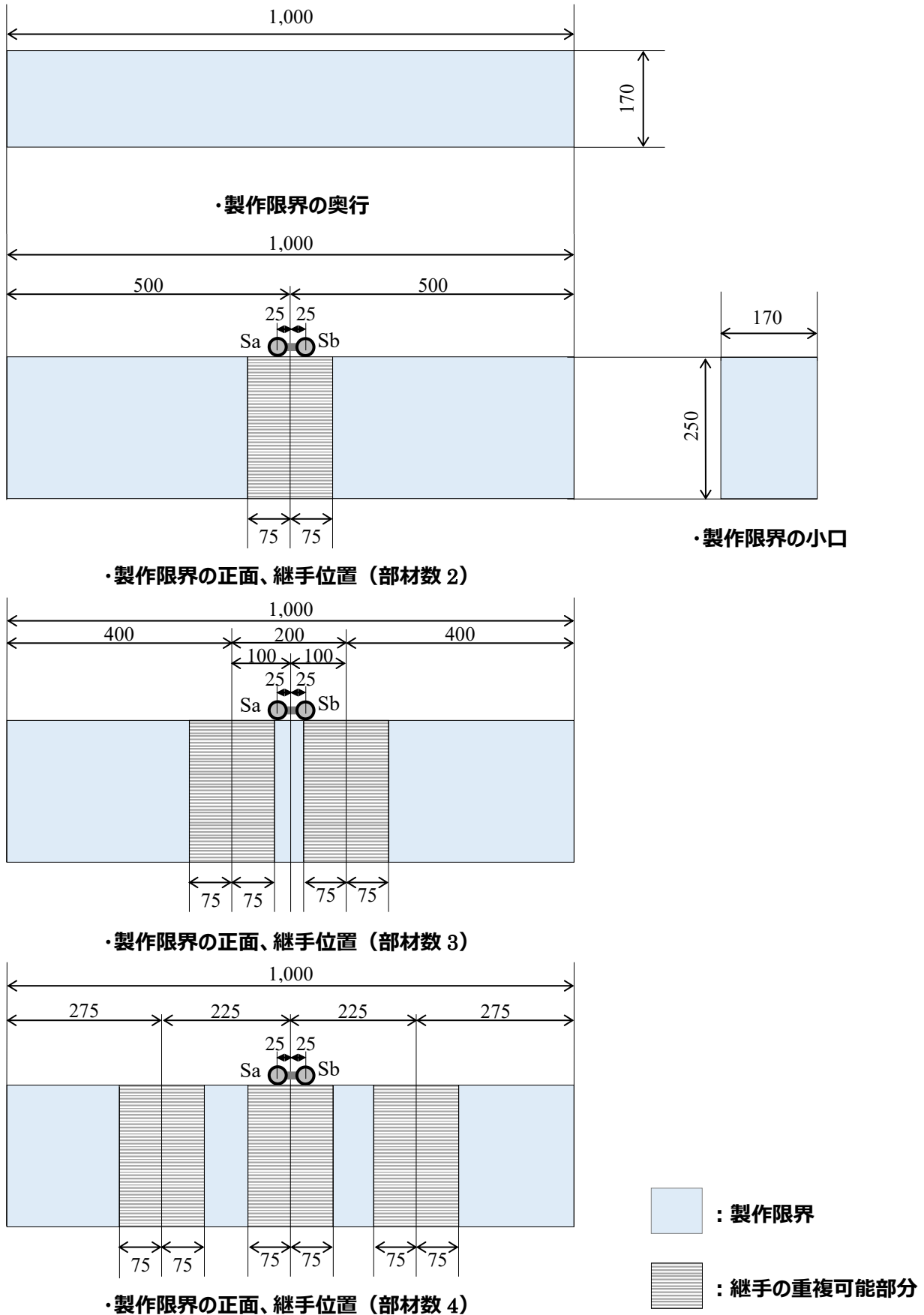


図 1 製作限界と各部材数で定める継手の重複可能部分 (単位 : mm)

※補足として各正面図には Sa 点、Sb 点の位置を描き加えている

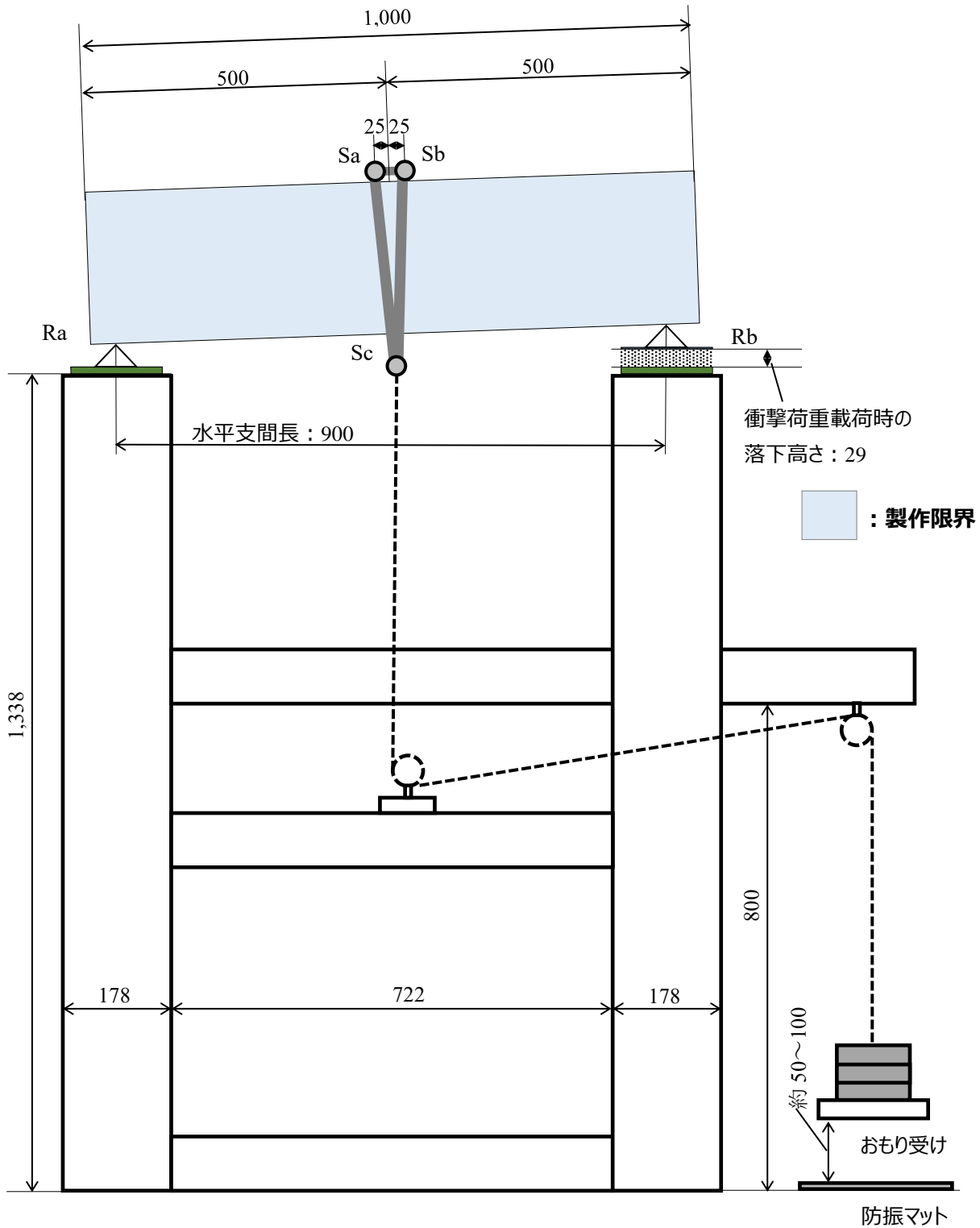


図 2 载荷装置と製作限界立面図（衝撃荷重載荷前、単位：mm）

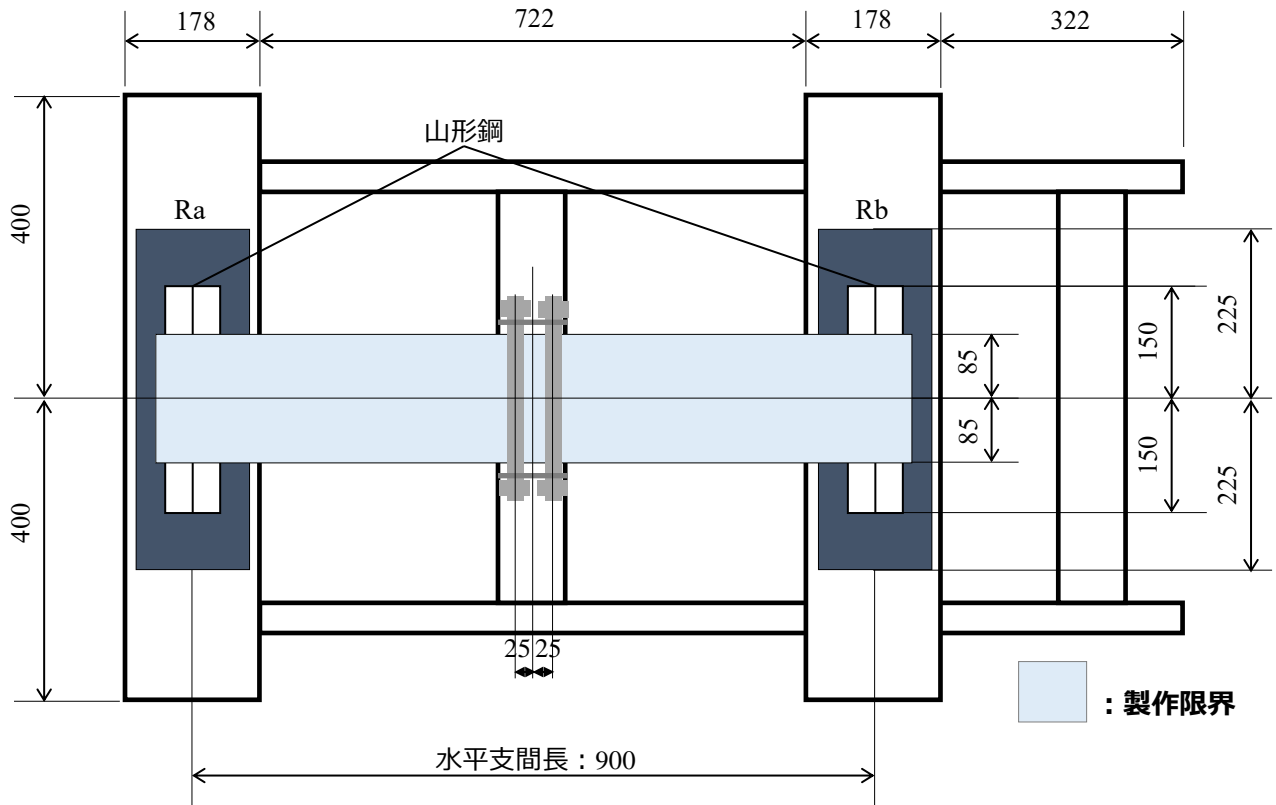
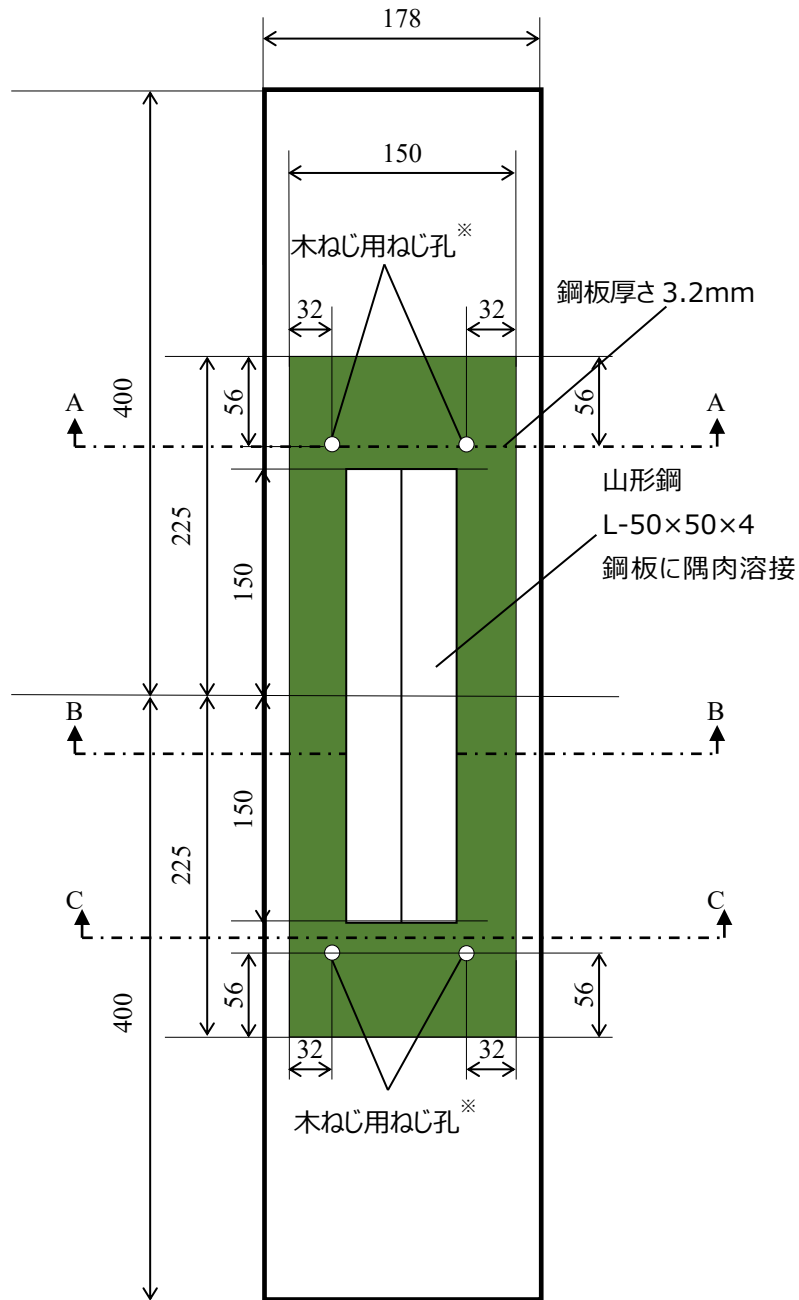


図3 载荷装置と製作限界平面図（衝撃荷重载荷前、単位：mm）



※各「木ねじ用孔」は、呼び M5、頭径 10mm のタッピング皿ねじが鋼板内に十分埋まるように孔あけ、ザグリ加工をしている（位置も含めて以降の他のねじ孔も同様）。

図 4 Ra 支点付近平面詳細図（単位：mm）

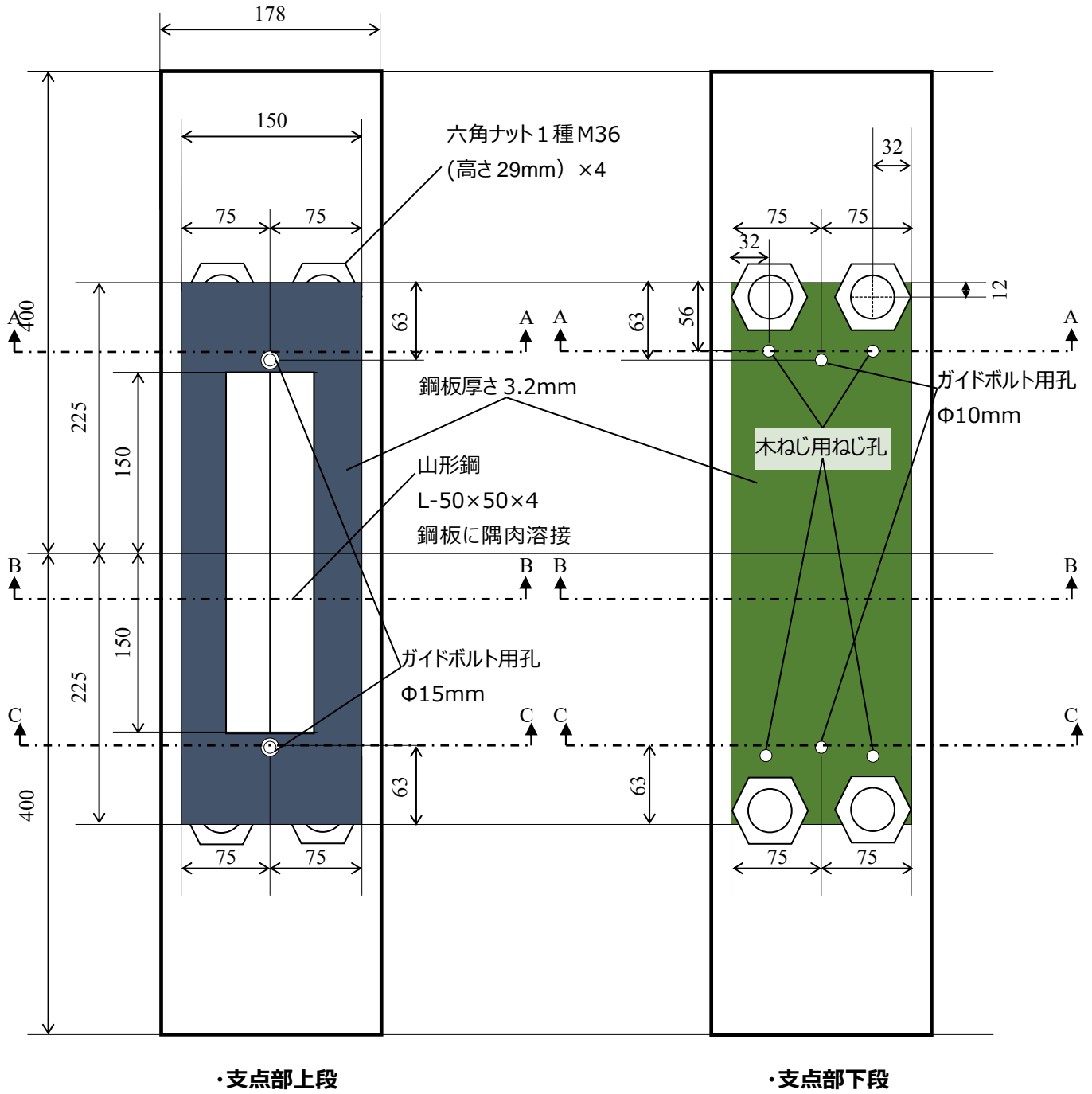


図5 Rb 支点付近平面詳細図 (単位: mm)

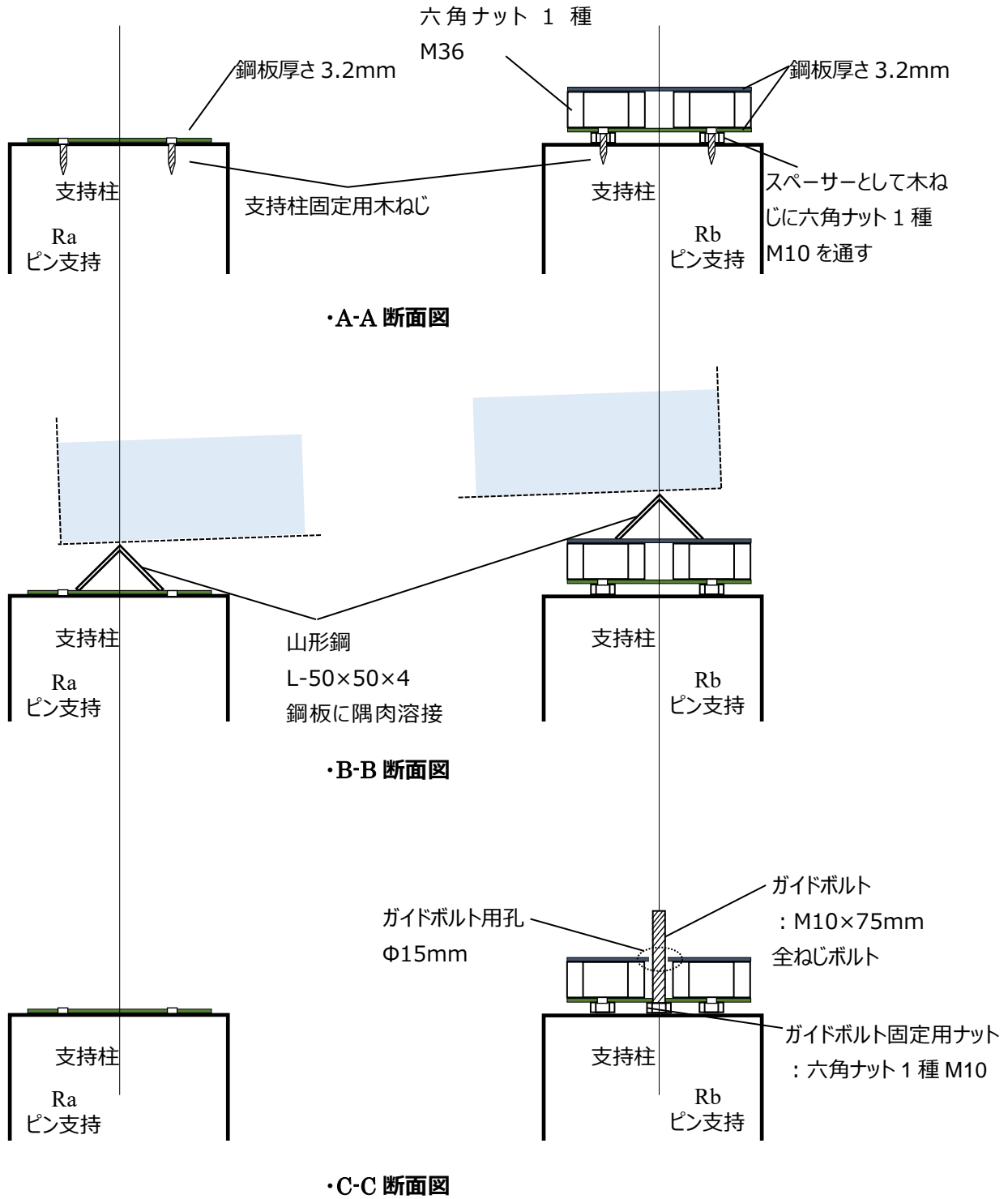


図 6 Ra、Rb 支点付近断面詳細図 (単位 : mm)

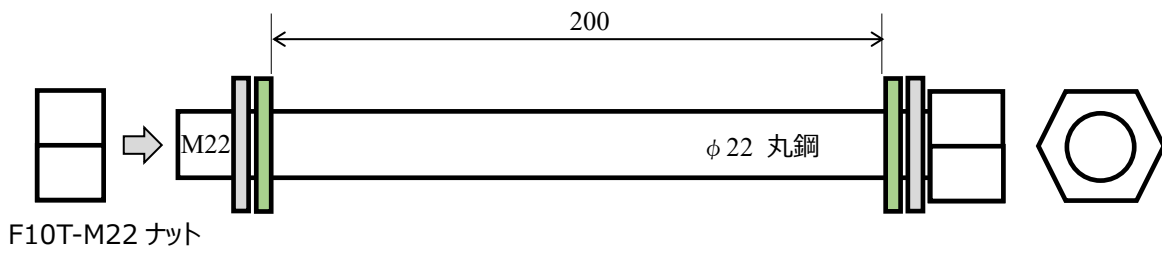


図 7 Sa、Sb ピン支承丸鋼

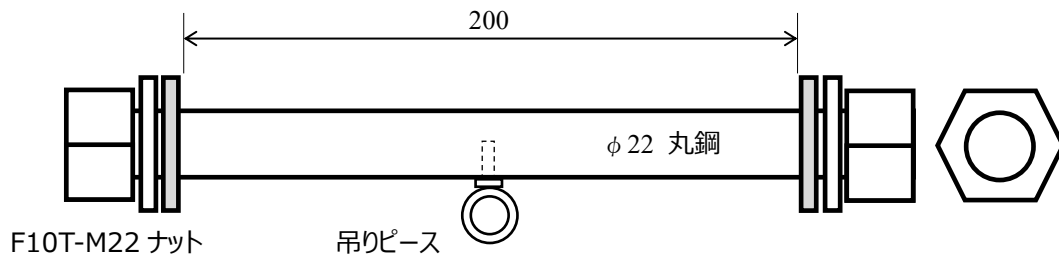


図 8 Sc ピン支承丸鋼

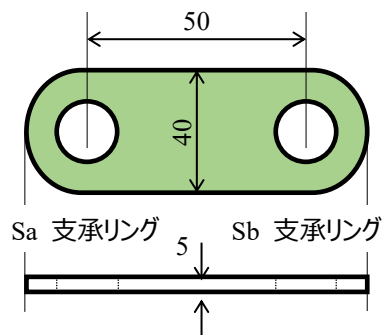


図 9 Sa - Sb 载荷治具

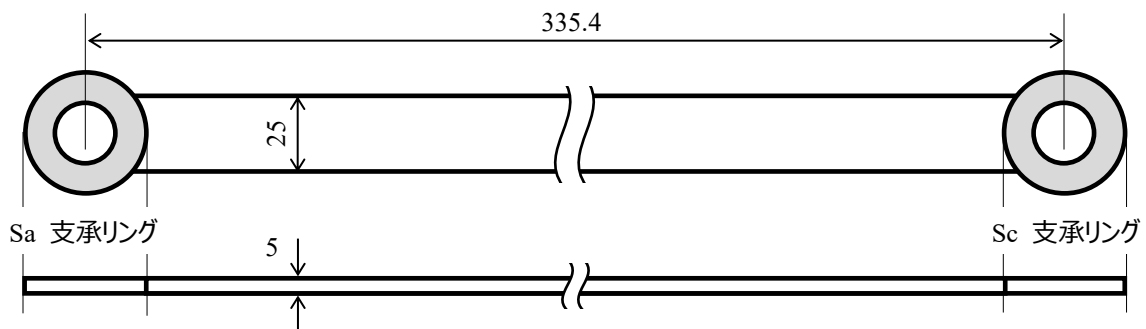


図 10 Sa - Sc 载荷治具

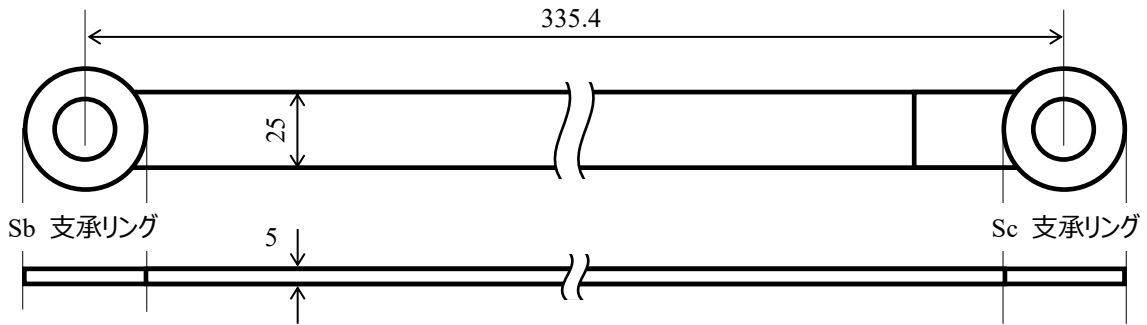


図 11 Sb - Sc 载荷治具

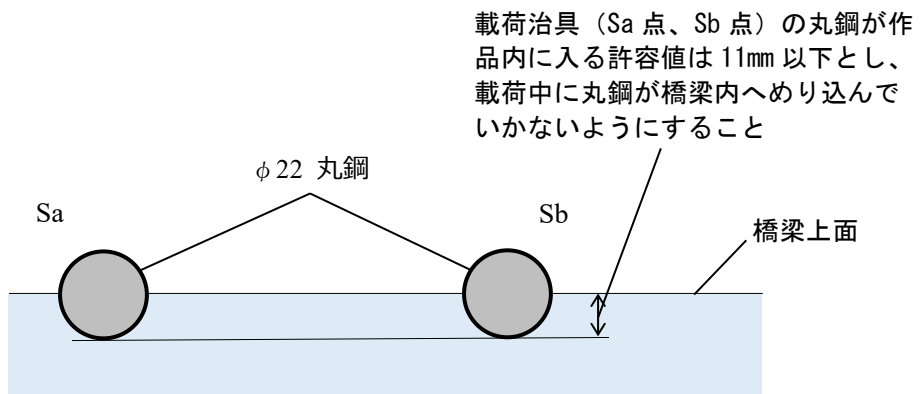


図 12 载荷治具のズレ止め機構の条件



写真1 橋梁の下に体を入れてのナット除去（禁止）

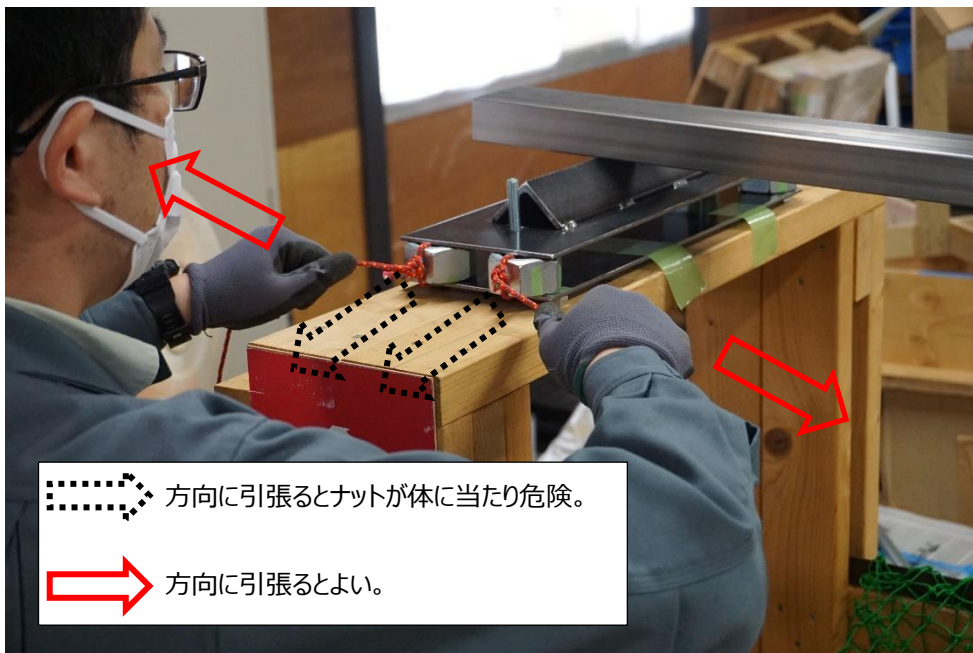


写真2 紐の引張り方

構造デザイン部門

No	質問校	質問	回答
1	明石高専	部材を4つにして、橋を作成しようと考えています。ですが水平支間長は940～960程度で考えています。募集要項には水平支間長1000mmで作成した場合の接合部分の寸法が記載されているのですが、それよりも短い水平支間長で作成した場合の寸法の縮尺等についての記載がなく、縮尺で合わせるのか、橋の中心からの寸法に合わせるようにするのか、どうあわせれば良いのでしょうか。それとも募集要項はあくまで例であって、接合部をどこで作るのかは私達で決めてもよろしいのでしょうか。	接合部については、橋の中心からの寸法に合わせて製作してください。
2	呉高専	載荷装置設置の際に踏み台を持ち込み使用してもよいか	踏み台の持込は可能です。
3	呉高専	昨年と同じ構造機構のものを提出することは可か	可能です。
4	呉高専	載荷装置に載荷するまでの間、第三者が時間を載荷する人に伝えることは可か、またストップウォッチの持ち込みは可か。	載荷装置に載荷するまでの間に第三者が時間を載荷する人に伝えることは禁止です。ただし、登壇している選手同士で声掛けをするのは、この限りではありません。また、原則として競技場への資機材の持ち込みは禁止とします。
5	呉高専	昨年、丸鋼のずれ機構がない高専や込み栓だと思われる機構を使っている高専が存在したが他高専の不備を発見した際の対応や点数への影響はどうか	要項に沿った構造となっているか否かの確認は、寸法確認等の際に運営側で実施し、参考載荷にする等の対応を実施します。
6	呉高専	審査員への質疑応答ではどの程度であればアピールを行ってもよいか	審査員への質疑応答時間内であれば、工夫した点等をアピールしていただいても大丈夫です。
7	呉高専	プレゼンボードの詳しい評価基準を知りたい	審査員評価点については、募集要項1.(1)②に記載のとおりです。審査員が、作品の構造的合理性、作品の独自性、プレゼンテーションポスターの出来栄えおよび審査員からの質疑応答内容を踏まえ、点数を採点することとなります。
8	呉高専	大会当日湿度が高かった場合など質疑応答以外は橋を箱の中にしめておくことは可か	湿度が高い場合、持参した箱の中にしめておくのは問題ありません。
9	舞鶴高専	要項p.15、図8 Sc ピン支承丸鋼で治具間隔が200(mm)とあるが、図9 Sa - Sb 載荷治具、図10 Sa - Sc 載荷治具および図11 Sb - Sc 載荷治具を作品本体側に近づけて載荷を行っても良いのか。	載荷治具は200mmを確保し、載荷するようにしてください。
10	和歌山高専	お世話になっております。構造部門の作品テーマが昨年度と同様ですが、昨年の作品を模倣した作品が出される可能性があると思います。そうなると、学生が試行錯誤しながら制作することがなくなってしまうように思いますが、どのような意図で昨年と同じ内容にされたのかをお聞かせください。	前回大会である舞鶴大会において、衝撃荷重を達成したチームが少なかったため、同様のテーマに再挑戦したいとの声もあり、それに応える形で同様のテーマ設定としています。

エントリー作品一覧【構造デザイン部門】 2024デザコンin阿南

作品番号	学校名	作品名・氏名・学年 (○は代表学生)
15	苫小牧高専	A ○中嶋 一心 (5年) 大沢 穂香 (5年) 齊藤 翔太 (5年) 田村 飛世莉 (2年) 寅尾 美羽 (5年) 山中 望々夏 (1年)
16	苫小牧高専	○有坂 優宏 (5年) 佐藤 泰樹 (4年) 真木 丈士朗 (5年) 俣野 林太郎 (5年) 上林 寛弥 (4年) 近藤 暁 (2年)
9	釧路高専	nusamai ○山崎 至恩 (5年) 惣宇利 瑠珂 (5年) 本橋 幸大 (専攻科1年) 菅野 はな (3年) 植竹 文花 (3年)
11	釧路高専	○渡邊 紅音 (5年) 佐藤 侃音 (専攻科1年) 狩野 由奈 (5年) 武田 紗奈 (5年) 松江 裕哉 (4年) 鈴木 美桜 (3年)
2	八戸高専	○天間 大斗 (4年) 岩織 圭汰 (4年) 田村 虎太郎 (4年) 江渡 修司 (4年) 沢口 東也 (4年) 松枝 賢勢 (4年)
38	秋田高専	○菅原 琉惺 (3年) 今野 友翔 (2年) 山田 陣 (1年)
40	秋田高専	Quadruple ○小笠原 悠太郎 (3年) 松淵 栞利 (3年) 山正 史織 (3年)
1	鶴岡高専	○小野寺 泰河 (5年) 土井 紗稀寧 (2年) 阿部 来翔 (2年)
12	鶴岡高専	○保科 来海 (5年) 齋藤 源治郎 (2年) 鈴木 佑弥 (2年) 保科 光琉 (1年)
17	福島高専	○大津留 優空 (3年) 三瓶 蒼惟 (3年) 會田 光基 (3年) 松崎 太希 (3年) 田中 妃万里 (3年) 鈴木 大翔 (3年)
49	小山高専	15 20 ○畑中 優志 (4年) 齋藤 さくら (4年) 鈴木 愛佳 (4年)
39	群馬高専	01 ○小林 光希 (5年) 小林 志門 (5年) 平田 花菜子 (2年) 山本 拓海 (2年) 小野 恭弥 (2年) 小川 桜子 (2年)
41	群馬高専	02 ○今井 和空 (3年) 杉原 菜々 (3年) 志村 美月 (3年) 島崎 飛里 (5年) 関根 恵信 (1年) 今井 菊貴 (1年)
19	石川高専	○山口 隼 (4年) 松本 莉歩 (4年) 石川 琥珀 (4年) 古瀬 翔太郎 (4年) 浜田 裕輝 (4年) 小林 英幸 (4年)
25	石川高専	○岡田 光 (3年) 清造 竜之丞 (3年) 松島 千夏 (2年)
28	福井高専	○石田 誠一郎 (3年) 野村 梨帆 (2年) 齋藤 翔太 (2年) 牧田 匠望 (1年) 榎 翔生 (1年) 小谷 朝日 (5年)
29	福井高専	○玉村 真優 (2年) 藤上 隼玖 (2年) 三川 結聖 (1年) 園 空河 (1年) 保木 克也 (5年) 畑 季佑 (5年)
22	長野高専	○小畠 歩之 (5年) 笠井 健生 (5年) 小林 歩夢 (5年) 小関 すず (4年) 師田 結衣 (4年) 安田 茉央 (4年)
23	長野高専	○SEREY ROTHANAK OR (5年) 大澤 佑羽 (5年) 錦山 美鈴 (5年) 林 花穂 (5年) 森岡 ななみ (5年) YIAPAOHER FONGHER (4年)
47	岐阜高専	○神宮司 琉羽 (専攻科1年) 小椋 芽依 (専攻科1年) 成瀬 匠高 (専攻科1年) 増田 空我 (専攻科2年)
50	岐阜高専	○岡田 歩大 (専攻科1年) 江崎 香汰 (専攻科1年) 増輪 拓大 (専攻科1年) 向田 有杜 (専攻科1年) 小塚 遥仁 (専攻科1年) 入山 昇太郎 (専攻科1年)
20	舞鶴高専	1 ○川村 拓海 (5年) 平中 太朗 (4年) 平木 彪雅 (4年) 石崎 裕生 (3年) 藤田 朔夜 (3年) 荻野 歩 (3年)
21	舞鶴高専	2 ○植西 佐 (2年) 永井 泉希 (1年) 井上 博之 (4年) 陌間 聡志 (2年) 芝井 咲月 (1年) 間宮 帆香 (1年)
3	明石高専	SSM ○羽馬 義瑛 (3年) 井田 千尋 (3年) 小久保 翔也 (3年) 隅谷 樂 (3年) 松村 昌真 (3年) 水島 羽琉 (3年)
43	明石高専	○寺坂 拓磨 (5年) 武田 隼 (5年) 羽淵 陽向 (5年) 松原 直己 (5年) 村上 奨 (5年) 渡邊 由恭 (5年)
6	和歌山高専	○勝丸 直樹 (4年) 佐伯 育 (4年) 浅利 大雅 (4年) 橋詰 琉汰 (4年) 楠原 里穂 (4年) 村上 あやの (4年)
10	和歌山高専	○金塚 俐玖 (4年) 田中 敦稀 (4年) 中本 翔瑛 (4年) 辻本 正晴 (4年) 久原 礼 (4年)


エントリー作品一覧【構造デザイン部門】 2024デザコンin阿南

作品番号	学校名	作品名・氏名・学年（○は代表学生）
30	米子高専	○横野 永人（4年） 田巻 智理（4年） 川上 修太郎（4年） 岡田 紗和（4年） 田立 早笑（4年） 辻野 功人（4年）
36	米子高専	○遠藤 諒悟（4年） 越田 奏羽（4年） 齊鹿 夏希（4年） 中村 歩夢（3年） 片岡 芯太（3年） 徳永 惇哉（3年）
8	松江高専	MUGEN SARD BRIDGE nismo ○米原 瑞揮（5年） 原 観月（1年） 福田 七恵（1年） 足達 純大（1年） 落合 亜乙（1年） 森山 舞桜（1年）
24	松江高専	○新崎 真央（4年） 大西 成弥（5年） 友國 健晟（5年） 阿瀬川 獅友（4年） 浅野 広太（3年）
42	呉高専	○宇川 陽樹（5年） 畝 倅太（4年） 上林山 翼（4年） 小桜 果（4年） 桑原 帆乃未（4年） 百相 里花（2年）
45	呉高専	○西口 幹人（5年） 橋高 雷士（5年） 小嶋 翔太（5年） 大塚 惺矢（5年） 大中 康輝（5年） 藤原 福人（5年）
44	徳山高専	○廣中 隼輝（4年） 新田 結（5年） 福寿 幹（4年） 金子 まりも（3年） 有馬 虎珀（2年） 大迫 鈴歌（1年）
46	徳山高専	○福島 鈴葉（5年） 尾崎 未悠（専攻科2年） 中越 凜子（3年） 窪田 滯（3年） 石津 雅（2年） 藤井 敦大（2年）
33	阿南高専	○栗田 倅太郎（3年） 村田 幸星（3年） 仲田 大悟（3年） 江上 千裕（3年） 奈良 結依（3年） ラニャガ サリム（3年）
37	香川高専（高松）	○岩田 侑真（4年） 石原 陽斗（2年） 高嶋 一獅（2年） 吉村 総司郎（1年）
48	有明高専	○岩屋 昂士朗（専攻科2年） 泉 裕介（専攻科2年） 溝田 嵩弥（専攻科1年） 宇佐 仁徳（4年） 上村 明美（3年） 石瀧 希実（3年）
7	都城高専	○岩切 大昌（専攻科1年） 中城 美祐（5年） 別府 優心（5年） 川崎 奨馬（5年） 山下 夏輝（5年）
18	鹿児島高専	○水流 瑞季（4年） 鶴園 颯太（4年） 福元 涼太（4年） 荊原 久美子（4年） 福永 泰誠（4年） 平川 善介（4年）
31	近畿大学高専	elegant arch ○古川 直（5年） 山本 唯生（5年） 春木 遼太（5年）
32	近畿大学高専	big truss ○川上 弘泰（5年） 牧村 賢祐（5年） 三永 綾音（4年） 長柄 花凜（4年）
4	大阪公立大学高専	○一口 凌太郎（5年） 山本 光（4年）
5	大阪公立大学高専	Last Bridge ○千賀 慎也（4年） 喜多 哲生（4年） 北川 凌央（4年） 瀧口 蓮（4年） 塚本 香純（4年） 山口 絢乃（4年）
13	神戸市立高専	B. bridge ○津川 桂海羽（4年） 稲石 帆乃果（2年） 坂下 仁那（2年） 牧崎 小柚（1年）
14	神戸市立高専	○麻田 銀河（3年） 伊達 祐葵（3年） 下田 莉士（3年） 橋本 紗羅（3年） 池田 奏（3年）
26	新モンゴル高専	○ラハガワオチル アミンエレデネ（5年） プテドウヤンガ エンフアマガラン（5年） トゥメンバヤル テンギス（5年） イデルツォグト アマルジャルガル（5年） フレルスフ バヤラジャフラン（5年） ツォグオー トゥグルドゥル（5年）
27	新モンゴル高専	○バトモンフ ホンゴルゾル（4年） ジャラガルサイハン ビシレル（4年） モンフバト エグシグレン（4年） バヤラー バトゥルデ（4年） バザル ナランゴー（4年） プレントグトフ ソロンゴ（4年）
34	IETモンゴル高専	MOKO1 ○ゴトブ フレルーエレデネ（4年） トゥブシンサイカン マンライバヤル（4年） オロスー ナランバートル（4年） ダヴァドルジ バトーエレデネ（3年）
35	IETモンゴル高専	Moko2 ○サンダグドルジ ゾルバヤル（4年） スミヤクフー ホラン（3年） カリウナ アリウンセツテゲル（3年） プレブサンブー アマルトゥシン（4年）
51	モンゴル科技大高専	Sumber ○エンクトゥシグ ガンゾリグ（2年） シューデル ガンザム（2年） ゲゲーレル エルデネブルガン（2年） ブヤンジャルガル バヤンバット（2年） オチルブヤン アマルタイワン（2年） バヤルジャヴラン バヤルバート（2年）
52	モンゴル科技大高専	○ビルグーデイ シジルバートル（5年） エルデネホルル シャグダルスレン（5年） テンギス バヤスガラン（2年） ナランソロング ナランツヤ（2年） エンフマンライ ムンゾリグト（2年） チンゾリグ バトバヤル（2年）

以上、52件

デザコン2024 in 阿南 構造デザイン部門 結果一覧

得点 順位	作品 番号	高専名	作品名	質量 (g)	部材数	仕様 確認	審査員 評価点 (30点)	競技得点					合計得点 (138点)	受賞
								部材数 係数	設置時間 係数	軽量点 (20点)	荷重得点 (70点)	合計 (108点)		
1	36	米子高専	要	160.8	4	○	27.00	1.2	1.0	18.371	70	106.04	133.0	最優秀賞 (国土交通大臣賞)
2	30	米子高専	渡鳥橋	166.0	4	○	27.33	1.2	1.0	17.795	70	105.35	132.7	優秀賞 (日本建設業連合会会長賞)
3	44	徳山高専	魁兜	170.9	4	○	25.33	1.2	1.0	17.285	70	104.74	130.1	優秀賞
4	46	徳山高専	翠月	207.7	4	○	26.67	1.2	1.0	14.222	70	101.07	127.7	審査員特別賞
5	2	八戸高専	橋、好きになりました。	286.0	4	○	21.33	1.2	1.0	10.329	70	96.39	117.7	日刊建設工業新聞社賞
6	27	新モンゴル高専	竜	294.0	4	○	25.00	1.2	0.9	10.048	70	86.45	111.5	審査員特別賞
7	38	秋田高専	市松網代橋	749.1	4	○	19.67	1.2	1.0	3.943	70	88.73	108.4	東京水道社賞
8	24	松江高専	縁結橋	1334.4	4	○	20.00	1.2	0.9	2.214	70	77.99	98.0	
9	42	呉高専	チーム共橋	331.0	4	○	25.33	1.2	1.0	8.924	40	58.71	84.0	
10	3	明石高専	SSM橋	321.9	4	○	23.67	1.2	1.0	9.177	40	59.01	82.7	
11	16	苫小牧高専	優宏	181.5	4	○	26.33	1.2	1.0	16.275	30	55.53	81.9	
12	45	呉高専	合	273.3	4	○	27.00	1.2	1.0	10.809	30	48.97	76.0	
13	21	舞鶴高専	ッ。～継手の構造について～	200.4	4	○	26.67	1.2	0.9	14.741	30	48.32	75.0	
14	20	舞鶴高専	SECONDIMPACT	320.9	4	○	23.67	1.2	1.0	9.205	30	47.05	70.7	
15	26	新モンゴル高専	心臓	331.1	4	○	23.67	1.2	1.0	8.922	30	46.71	70.4	
16	19	石川高専	NITI-C	282.4	3	○	24.67	1.1	1.0	10.460	30	44.51	69.2	
17	40	秋田高専	Quadruple	768.8	4	○	21.00	1.2	0.9	3.842	40	47.35	68.3	
18	15	苫小牧高専	マルボーズ・マイスター	186.1	4	○	25.00	1.2	1.0	15.873	20	43.05	68.0	
19	51	モンゴル科技大高専	Sumber	306.2	4	○	22.00	1.2	0.9	9.647	30	42.82	64.8	
20	31	近畿大学高専	elegant arch	435.2	4	○	22.33	1.2	0.9	6.788	30	39.73	62.1	
21	28	福井高専	弦	520.6	3	○	24.00	1.1	0.9	5.674	30	35.32	59.3	
22	39	群馬高専	四安弧	147.7	4	○	26.33	1.2	0.9	20.000	10	32.40	58.7	
23	52	モンゴル科技大高専	「青空の架け橋」	338.2	4	○	24.00	1.2	0.9	8.734	20	31.03	55.0	
24	13	神戸市立高専	B. Bridge	1387.5	4	○	19.33	1.2	0.9	2.129	30	34.70	54.0	
25	9	釧路高専	nusamai	391.7	3	○	23.00	1.1	1.0	7.541	20	30.30	53.3	
26	18	鹿児島高専	薩摩富士	349.1	3	○	22.00	1.1	0.9	8.462	20	28.18	50.2	
27	4	大阪公立大学高専	にほんばし	243.4	4	○	26.00	1.2	0.9	12.136	10	23.91	49.9	
28	48	有明高専	橋を知れ！橋を！！	261.2	3	○	26.00	1.1	1.0	11.309	10	23.44	49.4	
29	25	石川高専	覇有虎子	733.7	2	○	21.33	1.0	1.0	4.026	20	24.03	45.4	
30	41	群馬高専	赤城	169.3	4	○	23.00	1.2	1.0	17.448	0	20.94	43.9	
31	11	釧路高専	三鶴の訓	364.2	3	○	23.33	1.1	1.0	8.111	10	19.92	43.3	
32	23	長野高専	月	473.4	4	○	22.00	1.2	1.0	6.240	10	19.49	41.5	
33	35	IETモンゴル高専	Truss bridge	337.4	3	○	21.33	1.1	0.9	8.755	10	18.57	39.9	
34	29	福井高専	柔	480.9	2	○	24.00	1.0	0.9	6.143	10	14.53	38.5	
35	17	福島高専	プエンテ橋	778.5	3	○	22.00	1.1	1.0	3.794	10	15.17	37.2	
36	32	近畿大学高専	big truss	647.5	4	○	21.33	1.2	0.9	4.562	10	15.73	37.1	
36	1	鶴岡高専	月山	735.0	4	○	22.00	1.2	0.9	4.019	10	15.14	37.1	
38	49	小山高専	8時15分～8時20分のキセキ	407.3	2	○	20.67	1.0	0.9	7.253	10	15.53	36.2	
39	22	長野高専	剛弓	331.7	4	○	23.00	1.2	1.0	8.906	0	10.69	33.7	
40	34	IETモンゴル高専	mou genkaiii...	326.7	3	○	23.33	1.1	1.0	9.042	0	9.95	33.3	
41	7	都城高専	翠風	368.9	4	○	23.33	1.2	1.0	8.008	0	9.61	32.9	
42	12	鶴岡高専	ラポール	395.0	4	○	23.67	1.2	0.9	7.478	0	8.08	31.7	
43	6	和歌山高専	しょうゆ	1865.3	2	○	17.67	1.0	0.9	1.584	10	10.43	28.1	
44	33	阿南高専	徳島ラーメン橋☆改	672.4	3	○	18.67	1.1	1.0	4.393	0	4.83	23.5	
45	14	神戸市立高専	高塚山	641.9	3	○	18.00	1.1	0.9	4.602	0	4.56	22.6	
46	47	岐阜高専	ハニカムスター	1124.9	3	○	19.33	1.1	1.0	2.626	0	2.89	22.2	
47	43	明石高専	氷	528.6	4	○	22.00	1.2	0.0	5.588	0	0.00	22.0	
48	5	大阪公立大学高専	ハシ。ー構造の力学についてー	310.5	4	○	20.67	1.2	0.0	9.514	0	0.00	20.7	
49	37	香川高専 (高松)	さぬきふじ	468.6	3	○	19.33	1.1	0.0	6.304	0	0.00	19.3	
50	50	岐阜高専	漢橋	1948.7	3	○	16.33	1.1	0.9	1.516	0	1.50	17.8	
51	10	和歌山高専	うめ	604.0	2	○	17.33	1.0	0.0	4.891	0	0.00	17.3	
52	8	松江高専	MUGEN SARD BRIDGE nismo	1499.2	1	×	-	-	-	-	-	-	-	参考載荷

注)  は載荷の全過程を成功した作品を示す (8作品)。